

平成30年8月29日

平成30年千葉市教育委員会会議第8回定例会

千葉市教育委員会

千葉市教育委員会会議第8回定例会議事日程

平成30年8月29日(水)

午後2時開会

- 1 開 会
- 2 会議録署名委員の指名
- 3 会期の決定
- 4 会議録の承認
- 5 議事日程の決定
- 6 非公開審議の決定
- 7 報告事項
 - (1) 平成30年度千葉市中学校生徒会交流会について…………… 1
[教育指導課]
 - (2) 平成30年度千葉市小・中学校新教育課程説明会について
…………… 3
[教育指導課]
 - (3) 平成30年度子ども議会について
…………… 7
[教育指導課]
 - (4) 「千葉市運動部活動ガイドライン」について …… 9
[保健体育課]
- 8 議決事項
 - 議案第34号 千葉市特別支援教育推進基本計画について
……………別添
[教育支援課]
 - 議案第35号 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の
状況に係る点検及び評価について ……別添
[企画課]
 - 議案第36号 平成30年度補正予算について(9月補正)
……………17
[学校施設課、教育支援課]
 - 議案第37号 千葉市情報公開条例による公文書開示請求に係る
処分に係る審査請求に対する裁決について
……………別添
[総務課]
- 9 臨時代理報告
 - 報告第5号 平成30年度補正予算について(7月補正)
……………23
[学校施設課]
- 10 その他
- 11 閉 会

報告事項（1）

平成30年度千葉市中学校生徒会交流会について

学校教育部教育指導課

1 目的 市内各中学校において、1年間活動してきた生徒会の成果と課題についての情報交換や、今後の生徒会活動のあり方についての話し合いを通して、より一層の交流を深めるとともに、生徒会活動を充実・発展させるための機会とする。

2 日時 平成30年6月26日（火） 14:00～16:00

3 場所 千葉市教育センター

4 参加者 各中学校生徒会役員各校1名 計55名参加
引率職員各校1名 計55名参加

5 内容

（1）開会行事

- ・教育委員会挨拶
- ・市長挨拶

（2）グループ協議

- ①アンケートの集計結果から
- ②1年間の活動の成果と課題

グループ協議は、生徒と教師と一緒にディスカッションする場も設定する。

【話し合われた内容】

- ・昨年度行われた区ごとの生徒会情報交換会以降、各校が取り組んだ新たな活動
- ・この1年で取り組んだ生徒会活性化に向けた様々な取組み
(意見箱や生徒会だよりの工夫、全校評議会を含めた委員会活動の工夫と改善)
- ・次期生徒会役員に引き継ぎたいこと

（3）閉会行事

- ・参加した生徒の感想
- ・講評

6 事後の取組み

- （1）今年度中に、各中学校の生徒会活動を記入した「千葉市中学校生徒会交流会を終えて」をCabinetに掲載し、他校の取組みを参考にできるようにする。
- （2）11月に「区ごとの生徒会情報交換会」を実施する。

報告事項（２）

平成30年度 千葉市小・中学校新教育課程説明会について

学校教育部教育指導課

1 目的

学習指導要領の趣旨等の理解を深めるとともに、学習指導要領の円滑な実施に向けて教育課程の実施上の諸問題を研究協議し、その解明を図り、小・中・特別支援学校教育の改善及び充実を図る。

2 本会のテーマ

「生きる力」を育む教育課程の工夫・改善
～子供たちの質の高い学びの実現に向けて～

3 期日及び日程

平成30年8月7日（火） ※小学校の教諭と管理職を対象に実施

平成30年8月8日（水） ※中学校の教諭と管理職を対象に実施

○日程

全体会受付	9：15～ 9：40
全体会	9：40～12：00
昼食・移動	12：00～13：30
部会受付	13：45～14：00
部会	14：00～16：30

4 参加者

千葉市立小・中・特別支援学校教職員

小学校 960人 中学校 765人

5 会場

全体会：千葉市民会館

部会：千葉市内各会場（※）

6 説明会の内容

(1) 全体会

- 主催者挨拶（学校教育部長）
- 趣旨説明（教育指導課長）
- 全体提案

【小学校】

① 「主体的な学習を通して、気付き・考えを深める学びの創造」

～かかわりを大切にした生活科、社会科の実践を通して～

千葉市立美浜打瀬小学校 教諭 井上 誠
教諭 五十嵐健一

② 「主体的に考え、心豊かに生きる子供の育成」

～道徳における協同的な学びの場を通して～

千葉市立園生小学校 教諭 鈴木 陽介

【千葉市教育センター】

「千葉市学力状況調査の調査結果を踏まえた授業改善」

主任指導主事 佐藤 隆弘

【中学校】

① 「『豊かな人間性』を育む教育活動の創造」

～学ぶ喜びを体感させる学習指導とキャリア教育の推進～

千葉市立椿森中学校 教諭 栗原 尊紀

② 「よりよい生き方を求めて、主体的に行動できる道徳的実践力の育成」

千葉市立大椎中学校 教諭 神山 和美

【教育指導課】

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた道徳科・道徳教育について」

指導主事 岡村 忍

(2) 部 会

教科等の新教育課程の説明等 教育指導課・教育支援課・保健体育課担当指導主事

※平成30年度分科会会場

	小 学 校【8月7日(火)】	中 学 校【8月8日(水)】
教育課程一般	千葉市民会館 大ホール	千葉市民会館 大ホール
国語	千葉市民会館 4階会議室1・2	千葉市民会館 4階会議室1・2
社会	千葉市文化センター9階会議室2・3・4	千葉市文化センター9階会議室2・3・4
算数・数学	千葉市民会館 3階特別会議室2	千葉市民会館 3階特別会議室2
理科	千葉市民会館 4階会議室3・4	千葉市民会館 4階会議室3・4
生活	教育センター4-1	
音楽	千葉市民会館 小ホール	千葉市民会館 小ホール
図画工作、美術	千葉市美術館 11階講堂	千葉市美術館 11階講堂
体育、保健体育	新宿公民館 講堂1・2	新宿公民館 講堂1・2
家庭	消費生活センター 研修講義室	消費生活センター 研修講義室
技術		千葉市民会館 3階会議室5
道徳	ポートサイドタワー 12階会議室	ポートサイドタワー 12階会議室
外国語活動・外国語	中央区役所 4階会議室1・2・3	中央区役所 4階会議室1・2・3
総合的な学習の時間	生涯学習センター 3階大研修室	生涯学習センター 3階大研修室
特別活動	稲毛区役所 大会議室	稲毛区役所 大会議室
特別支援教育	千葉市役所 8階正庁	千葉市役所 8階正庁
全体会	千葉市民会館 大ホール	千葉市民会館 大ホール
控え室・本部	千葉市民会館 4階特別会議室1	千葉市民会館 4階特別会議室1
控え室・指導主事	千葉市民会館 3階会議室7	千葉市民会館 3階会議室7

報告事項（3）

平成30年度「子ども議会」について

学校教育部教育指導課

1 目的

- 本市で生活している子どもたちの目線に立った意見を市政に生かすようにする。
- 本市の将来を担う子どもたちが、千葉市の現状と課題について話し合い、「市民一人一人がいきいきと幸せに暮らせるまちづくり」に向けた具体的な提案・質問を行う中で、千葉市民としての意識を高められるようにする。

2 日時 平成30年7月27日（金）9：00～12：00

3 会場 千葉市議会本会議場

4 出席者

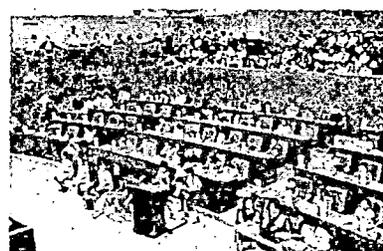
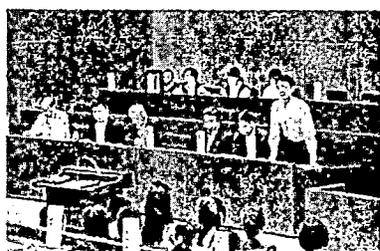
- (1) 子ども議会議員51人（公募による市内小学生5・6年生）
ファシリテータ役市内中学生17人
- (2) 市政担当者
市長、鈴木副市長、服部副市長
こども未来局長
教育長、教育次長
- (3) 市議会議員
千葉市議会議長、副議長
教育未来委員長、教育未来副委員長

5 傍聴者

- (1) 子ども議会議員の保護者、一般傍聴者 119人
- (2) 教育委員会及び学校関係者 9人
- (3) 千葉市議会議員（傍聴者） 2人

6 当日の日程

- (1) 千葉市議会議長挨拶
- (2) 子ども議会議長、議会運営委員紹介
- (3) 議会運営委員代表挨拶
- (4) 開会宣言
- (5) 出席者紹介、日程説明
- (6) 「みんなが住み続けたい千葉市をめざして」
【子ども議会議員による提案・質問および答弁】
※子ども議会議員がテーマごとに5グループに分かれて提案・質問を行い、市長・副市長・教育長の答弁がありました。
- (7) 市長講評
- (8) 閉会宣言



7 グループの提案・質問の内容と答弁者

グループ	提案・質問の内容	答弁者
① みんなが楽しめる魅力ある公園にしていこう	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉市にある自然豊かで遊具も整備された公園を紹介する取組みについて ・世界の特色を紹介できる公園の建設について ・公園整備のため、子供の企画により資金を集める取組みについて 	市長 服部副市長
② 千葉市の伝統と文化を広めていこう	<p>「千葉常胤生誕900年を記念」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イラストを発案し、身近なものにプリントしたり、スタンプラリーをしたりする取組みについて ・千葉氏の家紋をプリントしたクッキーづくりについて 	市長 鈴木副市長
③ 環境のことを考えたまちにしていこう	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉市にある自然豊かな公園をもっと知ってもらうために公園MAPの作成について 「ごみのない千葉市にするため」 ・千葉市のキャラクター型のゴミ箱設置について ・千葉市一斉ごみゼロ運動について 	市長 服部副市長
④ 外国人観光客が、快適に過ごせるまちにしていこう	<ul style="list-style-type: none"> ・QRコードを活用して、電車の切符の買い方や箸の使い方を紹介する取組みについて ・東京オリンピック・パラリンピックで、外国人を迎えるにあたり、「子どもボランティア」の提案について 	市長 鈴木副市長
⑤ 地域の人とともに居心地のよい学校にしていこう	<p>「地域の人と子どもたちの信頼関係を深めるため」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉名産のサツマイモの調理を地域の人と行ったり、子供、地域の人の特技を披露し合ったりする会の開催について ・地域の方から学んだり、地域の方が学んだりすることができる学校について ・地域の方と給食を食べる「ふれあい給食」について 	教育長

報告事項（４）

千葉市運動部活動ガイドライン

平成30年7月

千葉市教育委員会学校教育部

保 健 体 育 課

目次

1	ガイドライン策定の趣旨	… 1
2	運動部活動の学校教育における位置付け及び意義	… 1
	(1) 学校教育における位置付け	
	(2) 運動部活動の意義	
3	運動部活動の在り方に関する方針	… 2
	(1) 本方針の扱い	
	(2) 適切な運営のための体制整備	
	(3) 効果的な活動の推進のための取組	
	(4) 適切な休養日等の設定	
	(5) スポーツ環境の整備	
4	学校及び顧問の役割	… 5
	(1) 活動目標及び活動計画の作成	
	(2) 部活動の運営	
	(3) 保護者との連携	
	(4) けがや事故の防止	

参考・引用文献

- ・「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」(平成 30 年 3 月スポーツ庁)
- ・「運動部活動での指導のガイドライン」(平成 25 年 5 月文部科学省)
- ・「安全で充実した運動部活動のためのガイドライン」

(平成 30 年 6 月千葉県教育庁教育振興部体育課)

1 ガイドライン策定の趣旨

部活動は、スポーツや文化、科学等など、生徒が自分の興味・関心に応じて自主的・自発的に活動する中で、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養、互いに協力し合って友情を深めるなど好ましい人間関係の形成等に資するものである。

しかしながら、全国体力・運動能力、運動習慣等調査によると、千葉市の運動部活動の時間は、全国の平均に比べて長い時間となっており、生徒は十分な休養が取れていない状況にある。スポーツ医・科学の観点から、生徒が行き過ぎたスポーツ活動を行うことは、スポーツ外傷・障害やバーンアウトのリスクが高まり、体力・運動能力の向上につながらない（公益財団法人日本体育協会）と指摘されている。

このような中、平成30年3月に、スポーツ庁より「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が策定されたことから、本市においても国のガイドラインに則り、運動部活動の活動時間及び休養日の設定、その他適切な運動部活動の取組に関する「運動部活動の在り方に関する方針」を策定し、バランスのとれた心身の成長を促し、充実した学校生活を送ることができるようにするとともに、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を図る。

2 運動部活動の学校教育における位置付け及び意義

(1) 学校教育における位置付け

運動部活動は学校教育の一環として、スポーツに興味・関心のある同好の生徒の、自主的・自発的な参加により行われ、運動部顧問の指導の下、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、スポーツの楽しさや喜びを味わい、豊かな学校生活を実現させる役割を果たしていると考えられる。

(2) 運動部活動の意義

- スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
- 体力の向上や健康の増進につながる。
- 保健体育科等の教育課程内の指導で身に付けたものを発展、充実させたり、活用させたりするとともに、運動部活動の成果を学校の教育活動全体で生かす機会となる。
- 自主性、協調性、責任感、連帯感などを育成する。
- 自己の力の確認、努力による達成感、充実感をもたらす。
- 互いに競い、励まし、協力する中で友情を深めるとともに、学級や学年を離れて仲間や指導者と密接に触れ合うことにより学級内とは異なる人間関係の形成につながる。

このように、運動部活動は、各学校の教育課程での取組とあいまって、学校教育が目指す生きる力の育成を実現させる役割を果たしていると考えられる。また、大会等で勝つことのみを重視し過重な練習を強いることがないようにすること、健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育むためのバランスの取れた運営と指導が求められている。

さらに、体育・健康に関する指導は、学校の教育活動全体を通じて行われるものであり、運動部活動もそのうちのひとつである。運動部活動について、学校は、学校教育目標の具現化を図るため、全職員の共通理解・協力体制のもと、次の点に配慮した運営にあたることが重要である。

- 職員会議等において、全職員が運動部活動の意義を理解するとともに、情報を共有し、学級担任と顧問や指導者、また、顧問同士が相互に理解・支援し合うなど、組織的に取り組むことが大切である。
- 部活動を通じた生徒理解に努めるとともに、発達段階に応じて、能力や適性を見極め、その都度、健康状態を確認した上で、個に応じた指導を心がけることが大切である。
- 保護者や関係団体等との連携を図りながら部活動を活性化させるとともに、外部指導者や部活動指導員の積極的な活用等を通じて、地域に信頼される学校づくりを進めることが大切である。

3 運動部活動の在り方に関する方針

(1) 本方針の扱い

本ガイドラインは、義務教育である中学校段階（特別支援学校中学部を含む。）を主な対象とする。

なお、本ガイドラインの基本的な考え方は、学校の種類に関わらず該当するものであることから、高等学校段階の運動部活動についても本ガイドラインを原則として適用する。その際、中学校教育の基礎の上に、各学校の教育目標や教育課程における特色等に応じた多様な教育が行われている点に留意する。

(2) 適切な運営のための体制整備

ア 方針の策定

校長は、本ガイドラインに則り、毎年度、「学校の運動部活動に係る活動方針」を策定し、年度始めに、部活動保護者会等で周知する。また、運動部活動顧問が作成した、年間の活動計画（活動日、休養日及び参加予定大会日程等）並びに、毎月の活動計画及び活動実績（活動日時・場所、休養日及び大会参加日等）のうち、活動計画を学校の活動方針とともに公表する。

イ 指導体制の構築

教育委員会は、各学校の実態に応じて部活動指導員(※1)を積極的に任用し、学校に配置する。部活動指導員については、原則として、部はあるが専門的な指導のできる顧問がいない部や部活動を担当する顧問の指導経験が浅い部等に配置できるよう努めるものとする。(同一校に最長3年)

また、指導するスポーツや文化活動等に係る専門的な知識・技能のみならず、学校教育に関する十分な理解を有する者とするとともに、部活動指導員の職務能力向上のための研修を実施する。

校長は、毎月の活動計画及び活動実績の確認等により、各運動部の活動内容を把握し、生徒が安全にスポーツ活動を行うことができるようにするとともに、各種通知(※2)を踏まえ、教員の勤務時間管理等を行いながら、教員の負担が過度とならないよう、適宜、指導・是正を行う。

(3) 効果的な活動の推進

ア 適切な指導

運動部顧問は、スポーツ医・科学の見地からトレーニング効果を高めるためには、休養を適切に取る必要があること、また、過度の練習がスポーツ障害や外傷のリスクを高めてしまうこと等を正しく理解するとともに、生涯にわたってスポーツに親しむ基礎を培うことができるよう、生徒とのコミュニケーションを十分に図り、生徒がバーンアウトすることなく活動を続けていけるよう留意する。また、部活動の意義を十分に理解させながら、生徒の自主的な活動を支えていく活動となるよう配慮する。

技能や記録の向上等それぞれの目標を達成できるよう、競技種目の特性等を踏まえた科学的トレーニングの積極的な導入等により、休養を適切に取りつつ、短時間で効果が得られる指導を行う。また、発達個人差や女子の成長期における体と心の状態等に関する正しい知識を得た上で指導を行う。

イ 体罰の根絶等

過度な練習や行き過ぎた指導に陥ることのないよう、日頃から十分注意するとともに、言葉の暴力を含む体罰の根絶を徹底する。また、パワーハラスメントやセクシャルハラスメントによって生徒の人格や尊厳を不当に傷つけることがないように併せて配慮する。

※1 部活動指導員は、校長の監督を受け、平日及び土日の校内における実技指導、土日の大会・練習試合の実技指導等を行う。校長は、部活動指導員に部活動の顧問を命じることができる。

※2 (1) 「学校における働き方改革に関する緊急対策」平成29年12月26日文科科学大臣決定
(2) 「学校における働き方改革に関する緊急対策の策定並びに学校における業務改善及び勤務時間管理等に係る取組の徹底について」平成30年2月9日付け29文科初第1437号

(4) 適切な休養日等の設定

ア 適切な活動時間等

運動部活動は、体力や技能の向上を図る目的以外にも、生徒の多様な学びの場として、教育的意義が大きいものであるが、適切な休養を伴わない行き過ぎた活動は、生徒、教員ともに無理や弊害を生む恐れがある。

そこで、運動部活動における休養日及び活動時間については、成長期にある生徒が、運動、食事、休養及び睡眠のバランスのとれた生活を送ることができるよう、スポーツ医・科学の観点からのジュニア期におけるスポーツ活動時間に関する研究(※3)も踏まえ、以下を基準とする。

◆適切な活動時間

1日の活動時間は、長くとも平日では2時間程度、学校の休業日(学期中の週末を含む。)は3時間程度とし、できるだけ短時間に、合理的かつ効率的・効果的な活動を行う。

大会等への参加により、これを超えて活動する場合であっても、その前後の活動日の活動時間を短縮すること等により、過度にならないよう留意する。

なお、平日、休業日ともに、各学校で終了時刻を決定し、事前に生徒や保護者に知らせる。

◆休養日の設定

① 学期中は、週当たり2日以上休養日を設ける。(平日週1日の休養日の設定と土日(どちらかを休む)を含め、週に2日以上休養日を設ける。)

ただし、2日間連続して大会等に参加した場合は、他の日に休養日を振り替える。

② 長期休業中は、学期中に準じた扱いとする。

③ 生徒が十分な休養を取ることができるとともに、運動部活動以外にも多様な活動を行うことができるよう、ある程度長期の休養期間(オフシーズン)を設ける。

④ 千葉県教育研究会の日を市一斉の休養日として設定する。

※ 「休養日」とは、朝練習も午後練習も活動を一切行わない「1日活動をしない日」とする。

イ 地域や学校の実態を踏まえた工夫

休養日及び活動時間等の設定については、地域や学校の実態を踏まえた工夫として、定期試験前後の一定期間等、運動部共通、学校全体の休養日を設けることや、週間、月間、年間単位での活動頻度・時間の目安を定めることも考えられる。

※3 「スポーツ医・科学の観点からのジュニア期におけるスポーツ活動時間について」(平成29年12月18日 公益財団法人日本体育協会)において、研究等が競技レベルや活動場所を限定しているものではないことを踏まえた上で、「休養日を少なくとも1週間に1~2日設けること、さらに、週当たりの活動時間における上限は、16時間未満とすることが望ましい」ことが示されている。

(5) スポーツ環境の整備

ア 生徒のニーズを踏まえた環境

生徒の運動・スポーツに関するニーズは競技力以外にも、友達と楽しめる、適度な頻度で行える等、多様である。女子や障害のある生徒等も含めて生徒の潜在的なスポーツニーズ等に応じた活動を行うことができる運動部活動も考えられる。具体的な例としては、より多くの生徒の運動機会の創出が図られるよう、季節ごとに異なるスポーツを行う活動、競技志向でなく、レクリエーション志向で行う活動や体力づくりを目的とした活動等、生徒が楽しく体を動かす習慣の形成に向けた動機付けとなるものが考えられる。

教育委員会は、少子化に伴い、部員数が少なく円滑な運動部活動の実施が困難な場合には、生徒のスポーツ活動の機会が損なわれないよう、複数校の生徒による合同部活動等の取組を推進する。

イ 地域との連携等

教育委員会は、生徒のスポーツ環境の充実の観点から、学校や地域の実態に応じて、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団、体育協会や競技団体等との連携を密にし、学校と地域が協働、融合した形での地域におけるスポーツ環境の整備を進める。

また、スポーツに関する専門的な指導を受けられるよう、部活動指導員のみならず、各校に対して専門的な指導力を備えた地域の外部人材を派遣する外部指導者の活用も進める。

4 学校及び顧問の役割

(1) 活動目標及び活動計画の作成

運動部活動は、生涯にわたってスポーツに親しむ能力を育成することやバランスのとれた心身の成長を促す上で大変意義のあるものである。生徒の自主的・自発的な参加によることを踏まえ、顧問及び部活動指導員の一方的な方針により活動するのではなく、生徒の意見やニーズを把握した上で、活動計画の作成に当たることが必要である。また、生徒が充実した活動ができるようにするため、入部の際や年度始めの保護者会等において部活動の経営方針や目標、練習内容、年間計画、必要経費等の説明を丁寧に行い、保護者等の理解をあらかじめ得ることが大切である。さらに、活動をとおして生徒の意見等を把握する中で、適宜、目標、計画等を見直し、よりよい部活動経営に努める。活動計画を作成するに当たっては、年間を見通し参加する大会等を精査し、明確にするとともに、月毎に、活動計画（休養日が分かるもの）及び活動実績を校長に提出する。

(2) 運営上の留意事項

部活動の運営に当たっては、生徒が主体的、意欲的に取り組むことができるよう雰囲気づくりや心理面での指導の工夫、安心して活動できる環境を整備することが大切である。生徒の良いところを見つけて伸ばしていく肯定的な指導や叱ること等を場面に応じて適切に行っていくことが望まれる。また、顧問及び部活動指導員の感情により指導内容や方法が左右されないよう注意し、生徒の心理面を考慮しつつ、肯定的な声かけや励まし等を行いながら、生徒の良さを引き出す工夫も必要である。そのためには、生徒の活動状況をよく観察し、日頃から指導に当たる上での情報の収集に努める必要もある。また、厳しい指導と適切なフォローを加えた指導をすることにより、指導者と生徒の信頼関係づくりにも留意する。運動部活動は複数の学年が参加することや同一学年でも異なる学級の生徒が参加する活動であり、望ましい人間関係の育成が求められる。顧問及び部活動指導員は、生徒のリーダー的な資質能力の育成とともに、協調性、責任感の涵養等の望ましい人間関係や人権感覚の育成、生徒への目配り等により、上級生による暴力行為やいじめ等の発生の防止を含めた適切な集団づくりに留意することが必要である。

(3) 保護者との連携

部活動は、保護者や地域の方々への理解や協力のもとに成り立つものでもあることから、年度始めの保護者会等で、学校全体の目標や方針、各部の目標や方針、計画等について積極的に説明し、理解を得ることが大切である。

また、物品の購入や大会等への参加費の徴収など金銭に関わることについては、事前に校長の許可を得るとともに、会計報告等の作成により保護者への説明を丁寧に行う必要がある。また、領収書等の保管についても、学校としてルールを設け、適切に対応することにより、説明責任を果たせるようにする。

(4) けがや事故の防止

近年、運動部活動でのけがや事故、熱中症(※4)等が発生するなど、スポーツは常に危険が隣り合わせにあるため、各生徒の安全を第一に考え、活動中はもちろん、用具の準備や準備運動などの事前の準備段階から事故の未然防止と事故発生時を想定した対応まで、万全の体制づくりが必要である。

指導者は、生徒はまだ自分の限界、心身への影響等について十分な知識や技能をもっていないことを前提として、生徒の発達段階や体力、技能の習得状況を把握し、無理のない練習となるよう留意するとともに、生徒の体調等の確認、関係の施設、設備、用具等の定期的な安全確認、事故が起こった場合の対処の仕方の確認、医療関係者等への連絡体制の整備に留意することが必要である。

運動部活動中、顧問の教員は生徒の活動に立ち会い、直接指導することが原則であるが、やむを得ず直接練習に立ち会えない場合には、他の顧問の教員と連携、協力することや、あらかじめ顧問の教員と生徒の間で約束された安全面に十分に留意した内容や方法で活動すること、部活動日誌等により活動内容を把握すること等が必要である。このためにも、日頃から生徒が練習内容や方法、安全確保のための取組を考えたり、理解したりしておくことが大切である。

議案第36号

平成30年度補正予算について（9月補正）

平成30年度補正予算を定めることについて、次のとおり市長に申し出るものとする。

平成30年8月29日提出

千葉市教育委員会教育長 磯野和美

平成30年度補正予算について(9月補正)

教育総務部学校施設課

1 学校施設のブロック塀等の改修に係る対応について

(1) 歳出補正予算について

① 補正理由

専決処分によりブロック塀等を撤去した後にフェンスを新設するほか、ブロック塀等の安全点検結果において「危険」とはされなかったが、老朽化が著しく改修が必要と判断されるブロック塀等について、撤去及びフェンスへの改修工事等を行うため、補正予算を要望する。

< 調査結果及び要改修箇所 >

区分	建築基準法			計
	不適合		適合	
	2.2m以上	その他		
A(安全)	20	62	76	158
B(一応安全)	11	66	47	124
C(要注意)	39	76	38	153
D(危険)	6	10	5	21
合計	76	214	166	456

<改修が必要な箇所>

<p>網掛け 103校332箇所</p> <p>[内訳]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 75校241箇所(うち廃校3校8箇所) ・中学校 27校87箇所 ・特別支援学校 1校4箇所 <p>※高等学校1校1箇所は、撤去済でフェンスを設置しない</p>

② 補正予算額 486,500千円

【財源】	市債	486,000千円
	一般財源	500千円

③ 補正予算の内容

事業名	項	補正予算額	工事内容
1 ブロック塀等改修	小学校費	383,000千円	ブロック塀等の撤去・フェンス設置 設計委託料: 31,000千円 工事請負費: 352,000千円
2 ブロック塀等改修	中学校費	103,000千円	ブロック塀等の撤去・フェンス設置 設計委託料: 9,000千円 工事請負費: 94,000千円
3 ブロック塀等改修	特別支援学校費	500千円	ブロック塀等の撤去・フェンス設置 設計委託料: 100千円 工事請負費: 400千円
合計		486,500千円	

④ 今後の予定

H30.10月～ブロック塀等の改修に係る実施設計

H31.2月頃～順次ブロック塀等の改修工事を実施

(2) 繰越明許費補正について

ブロック塀等の撤去及びフェンスへの改修事業の完了が次年度にずれ込む恐れがあるため、工事請負費について、繰越明許費を設定する。

事業名		項	補正予算額	工事内容
1	ブロック塀等改修	小学校費	352,000千円	ブロック塀等の撤去・フェンス設置
2	ブロック塀等改修	中学校費	94,000千円	ブロック塀等の撤去・フェンス設置
3	ブロック塀等改修	特別支援学校費	400千円	ブロック塀等の撤去・フェンス設置
合 計			446,400千円	

2 空調設備基本計画策定について

(1) 歳出補正予算について

① 補正理由

今夏の猛暑や文部科学省による学校環境衛生基準の変更、学校教育審議会の議論状況を総合的に判断し、普通教室へのエアコン導入に向け、事業手法の調査や事業費の算出、各校の現地調査等を行い、基本計画を策定するため、補正予算を要望する。

② 補正予算額 78,000千円

【財源】 一般財源 78,000千円

③ 補正予算の内容

空調設備導入に係る基本計画策定 一式

事業名		項	補正予算額	委託内容
1	空調設備基本計画策定	小学校費	52,157千円	111校 事業手法・事業費の算出 各校の現地調査等
2	空調設備基本計画策定	中学校費	25,843千円	55校 事業手法・事業費の算出 各校の現地調査等等
合 計			78,000千円	

平成30年度補正予算について(9月補正) (SNSを活用した教育相談事業について)

学校教育部教育支援課

1 補正理由

本市では、いじめ防止や不登校対策として、24時間体制での電話相談窓口の開設等、教育相談体制の充実に努めている。近年、スマートフォンの普及等に伴い、子どもたちのコミュニケーション手段として、SNSが大きな割合を占めるようになってきており、一人でも多くの子どもたちの「相談したい」という気持ちを汲み取るためには、身近な通信手段であるSNSを活用した相談体制の構築が必要である。

この度、文部科学省の「SNS等を活用した相談体制の構築事業」の募集があったことから、この補助金を活用し、モデル事業として、SNS相談窓口を開設するための補正予算を要望する。

2 補正予算額 7,400千円

【財源】 国庫補助金 7,400千円

3 補正予算の内容

【内訳】

- ・SNS相談窓口開設カード及びチラシの作成 494千円
※配布対象者:市立中学校・高等学校・特別支援学校の生徒(約2万5千人)
- ・SNSを活用した相談業務の委託費用 6,900千円
※窓口開設期間 平成30年10月下旬～平成31年1月(年末・年始を除く)
※相談受付 毎日(応答時間 17:00～21:00)
- ・打合せ旅費 6千円

4 今後の予定

平成30年10月 周知用カード・チラシの作成・配布
平成30年10月下旬 SNS相談窓口開設

議案説明

平成30年度補正予算について、市長に意見を申し出るため、千葉市教育委員会組織規則第8条第6号の規定に基づき、議決を求めるものであります。

報告第5号

平成30年度補正予算について（7月補正）

平成30年度補正予算について、次のとおり臨時代理により
処理したので報告する。

平成30年8月29日提出

千葉市教育委員会教育長 磯野和美

平成30年度補正予算について(7月補正)

教育総務部学校施設課

・ 学校施設のブロック塀等の改修に係る対応について

学校のブロック塀等の安全点検において「危険」と判定されたブロック塀等について、早急に危険性を除去するため、地方自治法第179条第1項に基づき、市長専決処分にて補正予算の措置を講じたので報告します。

<調査結果及び要改修箇所>

区分	建築基準法			計
	不適合		適合	
	2.2m以上	その他		
A (安全)	20	62	76	158
B (一応安全)	11	66	47	124
C (要注意)	39	76	38	153
D (危険)	6	10	5	21
合計	76	214	166	456

<早急に撤去が必要な箇所>

<p>網掛け 57校91箇所 [内訳] ・小学校 43校73箇所 ・中学校 12校16箇所 ・高等学校 1校1箇所 ・特別支援学校 1校1箇所</p>
--

専決予算額 112,500千円

【財源】	市債	112,000千円
	一般財源	500千円

事業名	項	補正予算額	工事内容
1 ブロック塀等改修	小学校費	91,000千円	ブロック塀等の撤去・仮囲い設置
2 ブロック塀等改修	中学校費	21,000千円	ブロック塀等の撤去・仮囲い設置
3 ブロック塀等改修	高等学校費	100千円	ブロック塀等の撤去・仮囲い設置
4 ブロック塀等改修	特別支援学校費	400千円	ブロック塀等の撤去・仮囲い設置
合計		112,500千円	

~~~~~

報 告 説 明

平成30年度補正予算について、千葉市教育委員会組織規則第9条第1項の規定に基づき臨時代理により処理したので、同条第2項の規定に基づき報告するものであります。

平成30年8月29日

平成30年千葉市教育委員会会議第8回定例会

[参考資料]

|          |       |    |
|----------|-------|----|
| 議案第34号関係 | ..... | 1  |
| 議案第35号関係 | ..... | 27 |

「千葉市特別支援教育推進基本計画」の策定について

教育支援課

1 趣旨

本市では、平成20年3月に「千葉市における特別支援教育の在り方について」の答申を受けて、特別支援教育の推進に取り組み、平成27年3月に「特別支援教育推進プラン」を策定した。社会情勢の変化を踏まえ、本市における特別支援教育の現状と課題を整理し、今後の更なる特別支援教育の充実に向けて、中・長期的な展望に立ち、特別支援教育の方向性を示す総合的・計画的な基本方針を示すために同プランを改定し「千葉市特別支援教育推進基本計画」(平成30年度から平成34年度)を策定する。

2 位置付け

本基本計画は、第2次千葉市学校教育推進計画の下位計画として位置づけ、平成30年度から34年度までの5年間を対象期間として策定する。中間年である平成32年度には具体的な取組について特別支援教育推進会議が評価を行う。また、平成34年度には第2次基本計画の検討委員会を組織し、本計画を引き継ぐ予定である。

《千葉市特別支援教育推進基本計画及び関連する施策に係る計画》

| 教育・福祉に関わる推進計画 |                       | H28             | H29 | H30     | H31   | H32 | H33 | H34   | H35 |  |
|---------------|-----------------------|-----------------|-----|---------|-------|-----|-----|-------|-----|--|
| 千葉市           | 千葉市新基本計画              | →               |     |         |       |     |     |       |     |  |
|               | 実施計画                  | 第2次実施計画(H27~)   |     | 第3次実施計画 |       |     |     |       |     |  |
| 教育委員会         | 千葉市の教育に関する大綱          | →               |     |         |       |     |     |       |     |  |
|               | 第2次千葉市学校教育推進計画        | →               |     |         |       |     |     |       |     |  |
|               | 特別支援教育推進プラン           | →               |     |         |       |     |     |       |     |  |
|               | 千葉市特別支援教育推進基本計画       |                 |     |         | →     |     |     |       |     |  |
| 障害者自立支援課      | 千葉市における障害福祉施策に係る中長期指針 | 10年間(平成29~38年度) |     |         |       |     |     |       |     |  |
|               | 第4次~6次障害者計画等の策定(3年単位) |                 |     |         | 第4次 → |     |     | 第5次 → |     |  |

3 検討課題

- I 就学相談・教育相談の充実
- II 多様な学びの場の充実
- III 一貫した支援とネットワークづくり
- IV 教職員の専門性と指導力
- V 特別支援教育の周知・理解と環境整備
- VI 養護教育センターの機能

#### 4 組織

##### 《千葉市における特別支援教育の在り方等に関する検討会議》

(有識者・関係者 6名)

(委員 11名)

|        |                         |
|--------|-------------------------|
| 学識経験者  | 千葉大学教授 北島 善夫            |
|        | 元小学校校長 奥村 兼弘            |
| 保護者代表  | 千葉市PTA連絡協議会代表<br>大塚 義生  |
|        | 千葉市手をつなぐ育成会代表<br>島田 貴美代 |
|        | 千葉市自閉症協会代表<br>菊池 裕美     |
| 専門部会代表 | 千葉市立大森小学校校長<br>黒川 章子    |

|         |                  |
|---------|------------------|
| 教育委員会関係 | 学校教育部長           |
|         | 教育支援課長           |
|         | 養護教育センター所長       |
| 学校関係者   | 小学校長会長           |
|         | 中学校長会長           |
|         | 千葉市特別支援教育研究協議会会長 |
|         | 千葉県特別支援教育研究連盟理事長 |
| 障害福祉関係  | 障害福祉サービス課長       |
|         | 障害者自立支援課長        |
| 幼保関係    | 幼保支援課担当課長        |
|         | 幼保運営課担当課長        |

(事務局：教育支援課、養護教育センター)

##### 《千葉市における特別支援教育の在り方等に関する検討会議 専門部会》

|                         |                       |
|-------------------------|-----------------------|
| 千葉県特別支援教育研究連盟理事長        | 千葉市特別支援教育研究協議会会長      |
| 千葉市特別支援学級設置校校長会長        | 教頭会代表                 |
| 教務主任会代表(小・中)            | LD等通級指導教室代表(小・中)      |
| 特別支援教育コーディネーター代表(小・中・特) | 言語指導教室代表              |
| 特別支援学級担当者代表(小・中)        | 千葉市教育研究会特別支援教育部門代表、役員 |
| 特別支援学校校長(第二養護・高等特別支援学校) | 養護教諭代表(小・中)           |
| 教育職員課・教育指導課             | 事務局(教育支援課・養護教育センター)   |

<専門部会員 33人>

#### 5 これまでの経過及び今後の予定

| 年月日       | 会議等                                             | 備考           |
|-----------|-------------------------------------------------|--------------|
| H28.6.29  | 平成28年度第1回千葉市における在り方等の検討会議                       |              |
| H28.9     | 各専門部会①                                          |              |
| H28.11.9  | 平成28年度第2回千葉市における在り方等の検討会議                       | 特別支援教育推進会議報告 |
| H28.12    | 各専門部会② ※各部会で3回又は4回実施                            |              |
| H29.2.17  | 平成28年度第3回千葉市における在り方等の検討会議                       | 特別支援教育推進会議報告 |
| H29.5.9   | 各専門部会①                                          |              |
| H29.6.23  | 平成29年度第1回千葉市における在り方等の検討会議                       | 特別支援教育推進会議報告 |
| H29.7.4   | 各専門部会②                                          |              |
| H29.9.4   | 各専門部会③                                          |              |
| H29.9.7   | 平成29年度第2回千葉市における在り方等の検討会議                       | 特別支援教育推進会議報告 |
| H29.12.13 | 平成29年度第3回千葉市における在り方等の検討会議                       |              |
| H30.1     | 千葉市特別支援教育推進基本計画(案)作成                            |              |
| H30.2     |                                                 | 特別支援教育推進会議報告 |
| H30.3     | 教育次長、教育長、市長 報告                                  |              |
| H30.4     |                                                 | 臨時特別支援教育推進会議 |
| H30.5     | 学校教育審議会報告(政策会議)                                 |              |
| H30.6     | パブリックコメント手続きの実施(6/15~7/17)                      | 特別支援教育推進会議報告 |
| H30.8     | 修正「市の考え方」公表                                     | 部課長会議報告      |
| H30.8.29  | 教育委員会議において議決                                    | 教育委員会議決      |
| H30.9     | 「千葉市特別支援教育推進基本計画」公表<br>市立小・中・高・特別支援学校及び関係機関等に配布 |              |

# 千葉市特別支援教育推進基本計画策定にあたっての基本的な考え方

## 策定の趣旨

わが国は国連の「障害者の権利に関する条約」の批准に向け、様々な障害者制度改革を進めてきました。平成24年7月には、中央教育審議会初等中等教育分科会から「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」が出され、平成25年6月に障害者差別解消法が成立し、平成28年4月に施行となりました。今後の学校教育は、障害のある児童生徒と障害のない児童生徒が共に学ぶための合理的配慮が一層求められる時代となります。

このような社会情勢の変化を踏まえ、今後の本市の特別支援教育の充実に向け、「千葉市特別支援教育推進基本計画（平成30年度から平成34年度）」を策定しました。なお、3年後を目途に中間報告を行う予定です。

## 検討課題

- I 就学相談・教育相談の充実
- II 多様な学びの場の充実
- III 一貫した支援とネットワークづくり
- IV 教職員の専門性と指導力
- V 特別支援教育の周知と理解
- VI 養護教育センターの機能

## 推進の理念と基本方針

### （理念）

- 1 「人間尊重の教育」を基調とし、共生社会の形成を目指します。
- 2 障害の有無に関わらず、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導と必要な支援を行い、子どもがもつ可能性と能力を高め、自立し社会参加できる教育を行います。

### （基本方針）

- 1 本市のこれまでの学校教育、特別支援教育の推進に向けた取組を生かし、さらに充実を図ります。
- 2 多様な学びの場(通常の学級・通級指導教室・特別支援学級・特別支援学校等)を整備・拡充します。
- 3 教職員の専門性の向上と人的支援の充実を含む教育環境の整備を図ります。
- 4 交流及び共同学習を一層推進するとともに、障害者理解の教育に取り組みます。
- 5 乳幼児期から成人期まで地域で一貫した支援が受けられるよう、教育が医療・福祉・労働と連携協力できるネットワークを構築します。

【キーワード】 「早期発見・早期支援」「切れ目のない一貫した支援」「学びの連続性」「チームとして連携」「基礎的環境整備・合理的配慮」「自立・社会参加」「共生社会」

## 千葉市の目指すべき子どもの姿

夢と思いやりの心を持ち、チャレンジする子ども

## 千葉市学校教育推進計画（第二次）との関連

- |                     |                           |               |
|---------------------|---------------------------|---------------|
| I 確かな学力を育てる         | II 豊かな人間性を育てる             | III 健やかな体を育てる |
| IV 子どもの学びを支える環境を整える | V 信頼される教職員が子どもと向き合う環境を整える |               |
| VI 多様な教育的支援の充実を図る   | VII 地域社会全体で子供の成長を支える      |               |

## 特別な支援が必要な児童生徒への指導の方向性

児童生徒の自立や社会参加に向け、一人一人の教育的ニーズを把握し、個々の能力や可能性を最大限に高めるための適切な指導及び支援を図る。

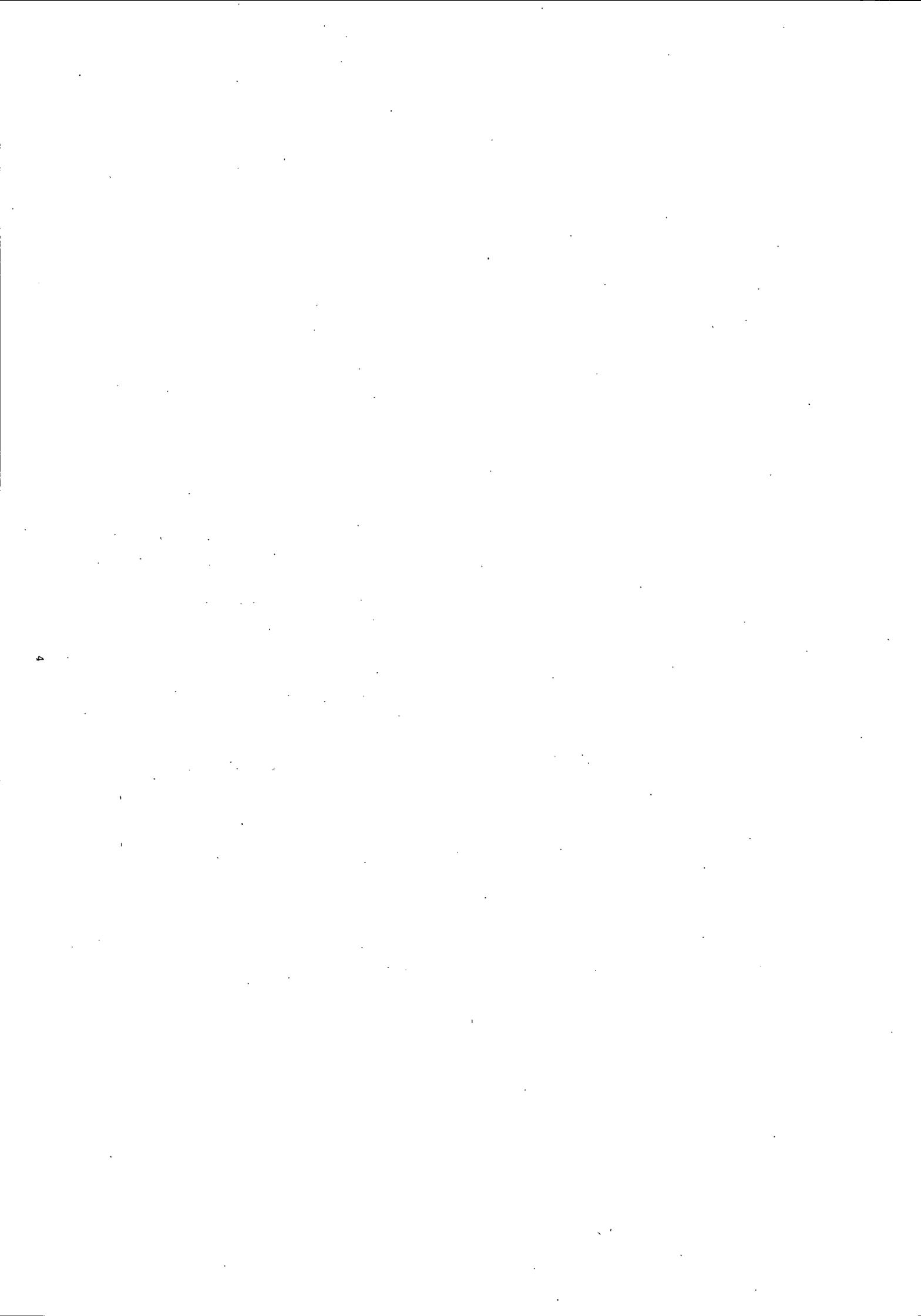
## 基本計画の進め方と検討課題の取組

- 第I部 総論  
 第1章 策定の趣旨  
 第2章 国が示した特別支援教育の方向性と本市の取組  
 第3章 本市における特別支援教育推進の経過  
 第4章 本市の教育施策における特別支援教育の位置付けと取組  
 第5章 本市の特別支援教育の理念と基本方針及び取組の柱  
 第6章 本市特別支援教育推進基本計画の進め方・エリア方式と組織体制

- 第II部 各論  
 第1章 就学相談・教育相談の充実  
 1 就学指導（早期からの支援）  
 2 教育相談（就学後の経過観察、柔軟な転学）  
 3 就学指導委員会（名称変更等）  
 第2章 多様な学びの場の充実  
 1 小学校・中学校（特別支援教育コーディネーターの役割と専任化の検討）  
 2 高等学校（校内支援体制の整備と通級指導教室の設置）  
 3 LD等通級指導教室（対象児童生徒数増加に伴う対応の検討、新設置他）  
 4 言語障害・難聴通級指導教室（専門性向上の取組と専門職等の配置検討）  
 5 特別支援学級（設置の方向性及び教育課程の検討）  
 6 特別支援学校（教育課程及び施設設備の充実）  
 第3章 一貫した支援とネットワークづくり  
 1 就労支援・福祉等との連携  
 2 「連携」に関する会議  
 3 ライフステージに応じたネットワークづくり  
 第4章 教職員の専門性と指導力  
 1 教職員の専門性と指導力 2 特別支援教育関連の教員採用と免許状取得  
 第5章 特別支援教育の周知・理解と環境整備  
 1 教職員への周知と児童生徒への障害者理解の教育  
 2 交流及び共同学習  
 3 基礎的環境整備と合理的配慮  
 第6章 養護教育センターの機能  
 1 就学相談 2 教育相談 3 教職員研修 4 教育研究  
 5 特別支援教育に関する人的配慮

## 千葉市特別支援教育推進基本計画及び関連する施策に係る計画

| 教育・福祉に関わる推進計画          |                       | H28               | H29 | H30     | H31 | H32 | H33 | H34 | H35 |
|------------------------|-----------------------|-------------------|-----|---------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 千葉市                    | 千葉市新基本計画              | →                 |     |         |     |     |     |     |     |
|                        | 実施計画                  | 第2次実施計画<br>(H27～) |     | 第3次実施計画 |     |     |     |     |     |
| 教育委員会                  | 千葉市の教育に関する大綱          | →                 |     |         |     |     |     |     |     |
|                        | 第2次千葉市学校教育推進計画        | →                 |     |         |     |     |     |     |     |
|                        | 特別支援教育推進プラン           | →                 |     |         |     |     |     |     |     |
| <b>千葉市特別支援教育推進基本計画</b> |                       | →                 |     |         |     |     |     |     |     |
| 障害者自立支援課               | 千葉市における障害福祉施策に係る中長期指針 | 10年間(平成29～38年度)   |     |         |     |     |     |     |     |
|                        | 第4次～6次障害者計画等の策定(3年単位) | 第4次               |     | 第5次     |     |     |     |     |     |



# 「千葉市特別支援教育推進基本計画（案）」に関する パブリックコメントの意見

## 1 意見の募集期間

平成30年6月15日（金）～平成30年7月17日（火）

## 2 提出方法別の提出者数・提出意見数

| 意見の提出方法 | 人 数 | 意見数 |
|---------|-----|-----|
| 郵 送     | 0人  | 0件  |
| F A X   | 0人  | 0件  |
| 電子メール   | 5人  | 54件 |
| 持 参     | 0人  | 0件  |
| 合 計     | 5人  | 54件 |

## 3 項目別意見数

| 項 目                                            | 意見数 |
|------------------------------------------------|-----|
| 全体に関する意見                                       | 5件  |
| 第Ⅰ部「総論」に関する意見                                  |     |
| 第1章「策定の趣旨」に関する意見                               | 1件  |
| 第2章「国が示した特別支援教育の方向性と千葉市の取組」に関する意見              | 2件  |
| 第3章「千葉市の教育施策における特別支援教育の位置付けと取組」に関する意見          | 6件  |
| 第4章「千葉市における特別支援教育推進の経過」に関する意見                  | 0件  |
| 第5章「千葉市の特別支援教育の理念と推進の基本方針及び取組の柱」に関する意見         | 4件  |
| 第6章「千葉市特別支援教育推進基本計画の進め方 - エリア方式と組織体制 - 」に関する意見 | 1件  |
| 第Ⅱ部「各論」に関する意見                                  |     |
| 第1章「就学相談・教育相談の充実」に関する意見                        | 3件  |
| 第2章「多様な学びの場の充実」に関する意見                          | 15件 |
| 第3章「一貫した支援とネットワークづくり」に関する意見                    | 1件  |
| 第4章「教職員の専門性と指導力」に関する意見                         | 1件  |
| 第5章「特別支援教育の周知と理解」に関する意見                        | 7件  |
| 第6章「養護教育センターの機能」に関する意見                         | 5件  |
| 関係資料に関する意見                                     | 2件  |
| その他                                            | 1件  |
| 合 計                                            | 54件 |

千葉市特別支援教育推進基本計画（案）に対する  
パブリックコメント手続きで提出された意見の概要と市の考え方

※ご意見の一部については、趣旨を損なわない範囲で要約して掲載させていただいております。  
※ページ数はパブリックコメント実施時のものです。

全体に関する意見

| No. | 項目 | ページ | 意見の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 市の考え方                                                                                                                                                                                          | 備考   |
|-----|----|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 1   | 全体 |     | 特別支援教育の推進は共生社会の実現を妨げるものである。特別支援教育に反対。この計画（案）は廃案にすべき。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 本計画は、平成 24 年 7 月 23 日付で中央教育審議会初等中等教育分科会より報告された「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」等、国（文部科学省）の示す方向性に基づき、平成 28、29 年度に保護者代表にも参加していただいた「千葉市における特別支援教育の在り方に関する検討会議」において検討、策定したものであることをご理解ください。 | な修正  |
| 2   | 全体 |     | <p>障害者権利条約第 24 条教育は、ユニセフが発行し、世界の子供達に向けて配布している「わたしたちのできること 障害者権利条約の話」では、「人は、学校へ行く権利があります。皆さんに障害があっても、それを理由に教育が受けられないということはありません。また、皆さんは別な学校で教育を受けるべきではありません。皆さんには、ほかの子どもたちと同じカリキュラムで教育を受ける権利があります。そして政府はこれを実施するために必要な支援をしなければなりません。」と書かれている。同じ学校で、同じカリキュラムで教育を受けるのが障害者の権利である。障害者を別な学校で教育している日本において教育における差別の解消のために 24 条の最も重視しなければならないところは、「2 締約国は、1 の権利の実現に当たり、次のことを確保する。</p> <p>(a) 障害者が障害に基づいて一般的な教育制度から排除されないこと及び障害のある児童が障害に基づいて無償のかつ義務的な初等教育から又は中等教育から排除されないこと。</p> <p>(b) 障害者が、他の者との平等を基礎として、自己の生活する地域社会において、障害者を包容し、質が高く、</p> | <p>国（文部科学省）の示す方向性に基づき進めております。本市の特別支援教育は、すべての子どもたちを対象としており、障害の有無、診断の有無に関係なく、保護者、本人の意向を尊重しながら、就学の場を決定しています。</p> <p>今後も子どもたち一人一人の教育的ニーズに応じた教育を目指してまいります。</p> <p>ご意見として受け止め、参考にさせていただきます。</p>      | 修正なし |

かつ、無償の初等教育を享受することができること及び中等教育を享受することができること。

- (c) 個人に必要とされる合理的配慮が提供されること。
- (d) 障害者が、その効果的な教育を容易にするために必要な支援を一般的な教育制度の下で受けること。
- (e) 学問的及び社会的な発達を最大にする環境において、完全な包容という目標に合致する効果的で個別化された支援措置がとられること。」

である。つまり今の分離教育を改めて、通常学級から排除されないことが最も求められていることである。特別支援教育によって支援学級、支援学校に分けられている現実は普通教育からの排除という差別であり、障害者権利条約を曲解して無理やり当てはめている状況である。計画案で、特別支援教育がまるで障害者権利条約に合致するかのよう引用し、差別を正当化することは間違っている。

障害者権利条約「障害のある子ども」「教育」に関する総括所見によると、2013年オーストリアに対して、権利委員会は、特別支援学校に在籍する子どもの数が増えていることに対する懸念を表明している。また、2013年オーストラリアに対しても「障害のある生徒が特別学校に措置され続けており、かつ、普通学校に在籍している障害生徒の多くは主として特別学級または特別班に押し込まれていることを懸念する。」としている。

障害者権利委員会の、インクルーシブ教育を受ける権利に関する一般意見第4号(2016年)には、「多くの障害のある人が、同級生から分離された環境でしか教育を受けることができず、しかもそこで受ける教育は質が低い」と指摘している。千葉市もこの総括所見および一般意見の指摘を謙虚に受け止めるべきである。

インクルーシブ教育にかかわる政策の計画立案、実施、監視及び評価のあらゆる側面において、分離(排除)は差別であり、障害者が分け隔てられないで教育を受ける権利を有するとの基本認識が必須である。それは、特別支援教育においてではなく、多様性を持った全ての子ども

|   |  |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |  |      |
|---|--|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|------|
|   |  |    | ものための教育として、組織、カリキュラム、指導方法など構造的に変更、調整していく問題として普通教育の問題として捉えるべきである。                                                                                                                                                                                                                               |  |      |
| 3 |  | 全体 | 特別支援教育の推進によって共生社会はむしろ遠いものになる。インクルーシブ教育システムは通級、支援学級、支援学校へ行かされる子供を増やし分離を進める分離システムである。共生社会は小さい子供の頃から分離されずに、教育で共生するところから始まることはサラマンカ宣言にもあるように明白である。障害者権利条約にいうインクルーシブ教育システムと市の計画案にいうインクルーシブ教育システムは別のものであり、この計画案にいうインクルーシブ教育システムでは、むしろ共生社会の実現を遠いものにする。分けない社会は分けない教育から始まることは明白である。                     |  | 修正なし |
| 4 |  | 全体 | 特別支援教育の理念は個人の能力に注目し、これまで障害者を苦しめてきた医学モデルとなっている。障害があっても全く問題のない一人の尊重された人間であるなら、なぜ別な場所に行かされるのか。一緒がいいならなぜ分けるのか。なぜ本人ができないことをあれこれ言われて努力を求められるのか。注目されるべきは教員の配置定数の改善を含めた一般教育のありかたそのものであり、人権モデルによって障壁をなくし差別をなくす努力を求められるのは学校教育（障害者の存在を想定しなできた普通教育）の方である。努力し変わるべきは学校であり、障害により差別されることなく同じ場所で同じ内容で学べる教育を求める。 |  | 修正なし |
| 5 |  | 全体 | インクルーシブ教育の推進を明記する。<br>言葉の教室等通級での指導も大切だが、基本は障がいがあっても通常の学級で学べる体制づくりを推進してほしい。                                                                                                                                                                                                                     |  | 修正なし |

総論に関する意見

| No. | 項目                       | ページ | 意見の概要                                                                                                                                                                                                                                        | 市の考え方                                                                                                                                                                   | 備考   |
|-----|--------------------------|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 1   | 第Ⅰ部<br>第1章               | 2   | <p>「今後の学校教育は障害のある児童生徒と障害のない児童生徒が共に学ぶための合理的配慮が一層求められる時代となります。」とあるが、共に学ぶ舞台は通常の教室にある。</p> <p>はっきり診断がつかない、もしくは診断が付いていても対策が練られていない児童・生徒が通常の教室には存在している。</p>                                                                                        | <p>特別支援教育は、本市のすべての子どもたちを対象としています。障害の有無、診断の有無に関係なく、子どもたち一人一人の教育的ニーズに応じられるように努力しています。</p>                                                                                 | 修正なし |
| 2   | 第Ⅰ部<br>第3章<br>3<br>表 1-1 | 7   | <p>環境面に重点を置くユニバーサルデザインはどんどんやっていただくとよい。しかしそれとは違う概念である「学びのユニバーサルデザイン」の導入を全ての通常の教室にお願いしたい。</p> <p>LD学会でも数年研究発表されている。お金をかけなくてもできる、千葉市で実践する方法があると思う。学びに困難を覚えている児童・生徒とそれを一生支えていく保護者に、学べる手だてを見つけてあげられるシステムの構築を望む。今後税金を払える人を増やす方法だと思ふ。</p>           | <p>「ユニバーサルデザイン」の考え方には、環境面への配慮のほか、学び方への配慮や学ぶ内容への配慮も含まれると考えています。</p> <p>一人一人の教育的ニーズに応えるためには、「わかる授業」の推進をしていくことが重要であり、そのために、「ユニバーサルデザイン」の考え方を取り入れていくことを今後も教職員に伝えてまいります。</p> | 修正なし |
| 3   | 第Ⅰ部<br>第2章               | 2   | <ul style="list-style-type: none"> <li>「本市の特別支援教育における行政施策は、国（文部科学省）の示す方向性に基づき取り組まれています。」と表記の変更を検討してください。</li> <li>当該箇所前後に「本市」とありますので、平仄を揃えてほしい。</li> <li>本市の行政施策は、文部科学省が示す方向性にのみ基づくものではない。案文の一文だけでは、正確な記述にならない。言葉を補い、より正確な表現にすべき。</li> </ul> | <p>「本市の特別支援教育における行政施策は、国（文部科学省）の示す方向性に基づき、『千葉市における特別支援教育の在り方に関する検討会議』等において検討、策定し、取り組んでいます。」と修正します。</p> <p>以後、「千葉市」は「本市」と記載します。</p>                                      | 修正あり |
| 4   | 第Ⅰ部<br>第2章<br>4          | 3   | <ul style="list-style-type: none"> <li>「文部科学省に設置された中央教育審議会の先の報告では、（以下略）」と表記の変更を検討してほしい。</li> <li>「中教審」は正式名称ではない。教育関係者でない市民や障害者本人、保護者等も広く、分かりやすく、正しく理解できるよう、正式名称を用いて言葉を補うべき。</li> </ul>                                                       | <p>「文部科学省に設置された中央教育審議会の先の報告では、～（以下略）」と修正します。</p>                                                                                                                        | 修正あり |

|   |                 |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                        |      |
|---|-----------------|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 5 | 第I部<br>第3章<br>4 | 7 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「平成29年度に千葉市学校教育の課題と目標を取りまとめた報告書(P)『21世紀を拓く』では、(以下略)」と「21世紀を拓く」の内容を補足する文章を検討してほしい。</li> <li>・「21世紀を拓く」が何者か全くわからないため、言葉を補ってほしい。</li> <li>・本計画書は本市教育関係者以外の多くの方々の目に触れますので、常に読み手に伝わりやすい文章表現を意識していただく必要があると感じます。</li> </ul>                                                                                   | <p>「4 千葉市学校教育の課題『21世紀を拓く』」については、下記のように全文を修正します。</p> <p>本市では、前述した「第2次千葉市学校教育推進計画」の教育目標を「わかる授業の推進」及び「楽しい教室・夢広がる学校づくり」の視点から、本市学校教育の方針や課題をまとめた「千葉市学校教育の課題『21世紀を拓く』」を作成、毎年教職員に配布し、学校教育の充実に努めています。これは、本市教職員が毎年、推進計画やその年次目標を意識して教育活動に取り組むための重要な指針となっています。</p> | 修正あり |
| 6 | 第I部<br>第3章<br>4 | 7 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「『21世紀を拓く』においては、『わかる授業の推進』の項目において特別支援教育が盛り込まれ、『楽しい教室・夢広がる学校づくり』の項目においては、特別な児童生徒への指導が盛り込まれ、それぞれに掲げた目標に向けた取り組みを進めています。」と表記の変更を検討してください。</li> <li>・案文中に20番目、4番目と順番が明記されていますが、意味が理解できない。順番が本市の取り組む施策の優先順位を示しており、重軽を表現したい等の理由があるのであれば、その旨を明記すべきで、非常に重要な論点となるが、そうでない場合、本文中では不要な情報のため、本文中からは、削除すべき。</li> </ul> | <p>「21世紀を拓く」においては、特別支援教育や特別な支援が必要な児童生徒への指導を盛り込み、それぞれに掲げた目標に向けた取組も進めております。</p> <p>本推進基本計画は、これまで本市で推進してきた特別支援教育に関する教育行政全般の計画との整合性に配慮しつつ、より特別支援教育に焦点化した、具体的かつ実効性を伴う計画として策定します。</p>                                                                        | 修正あり |
| 7 | 第I部<br>第3章<br>4 | 7 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「これは、本市教職員が毎年、推進計画やその年次目標を意識して教育活動に取り組むための重要な指針となっています。」と表記の変更を検討してください。</li> <li>・案文にある「有効です」という表現は、些か自画自賛感が否めない。何か有効性を示す定量的なデータがあれば、付記すべきと史料するが、前後文章の趣旨を鑑み、表記の変更が適当であると考えます。</li> </ul>                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                        | 修正あり |
| 8 | 第1部<br>第3章<br>4 | 7 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「このように、本市においては、学校教育政策全般の中に特別支援教育を明確に位置付け、国策で(以下、略)」と表記の変更を検討してください。</li> <li>・案文にある「きちんと」という表現は、行政委員会が策定する計画書等ではあまり見かけない表現のため、些か違和感が否めません。</li> </ul>                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                        | 修正あり |

|    |                      |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                           |      |
|----|----------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 9  | 第I部<br>第3章<br>4      | 7  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本項で申し述べたいことを整理・精査し、表現方法含めて再検討し、必要があれば、適宜修正を。</li> <li>・本項全体が「21世紀を拓く」に特別支援教育が位置付けられ、これに関連して各施策が展開されているようなことを記述したい印象は伝わってきますが、行政委員会が策定する計画書等ではあまり見かけない表現もいくつか混在しており、何を申し述べようとしているか、理解しにくい仕上がりになってしまっている印象を受ける。</li> <li>・本計画書は、本市の特別支援教育に関する関係者のみならず、多くの方々の目に触れますので、どうか落ち着いて、全体の修文を試みるべき。</li> </ul> |                                                                                                           | 修正あり |
| 10 | 第I部<br>第5章<br>1<br>① | 13 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「本市のこれまでの学校教育、特別支援教育の推進に向けた取り組みを<u>活かし</u>、さらに充実を図ります。」と表記の変更、平仄の統一を検討してほしい。</li> <li>・文中の趣旨で使い分けをしている意図は感じられない。「取り組み」、「取組」の平仄を整えてほしい。</li> <li>・「生かし」誤植ではないか。「生かす」、「殺す」の意味での使い分けは感じられないので、修正が必要。</li> </ul>                                                                                        | <p>「本市のこれまでの学校教育、特別支援教育の推進に向けた<u>取組</u>を<u>活かし</u>、さらに充実を図ります。」と修正します。</p> <p>単語として使用する場合、「取組」と統一します。</p> | 修正あり |
| 11 | 第I部<br>第5章<br>1<br>④ | 13 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「交流及び共同学習を一層推進するとともに、障害者理解の教育にも積極的に取り組みます。」と表記の変更を検討してほしい。</li> <li>・「障害者理解教育」という単語は、一般的でない印象も受ける。他で出現しない単語である場合、「の」を補った方が自然に読むことができる。</li> </ul>                                                                                                                                                   | 「交流及び共同学習を一層推進するとともに、障害者理解の教育にも積極的に取り組みます。」と修正します。                                                        | 修正あり |
| 12 | 第I部<br>第5章<br>3      | 14 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者自立支援課が策定した『第4次～6次障害者計画等の策定（3年単位）』と『千葉市における障害者福祉施策』の表記順序の入替を検討してほしい。</li> <li>・千葉市における『障害福祉施策に係る中長期指針』および『第4次～6次障害者計画』においては、前者の中長期指針が上位概念であることが明記されている。上位概念を下位に明記することに強い違和感がある。</li> </ul>                                                                                                        | 表を修正します。                                                                                                  | 修正あり |

|     |                     |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                  |      |
|-----|---------------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 1 3 | 第 I 部<br>第 5 章<br>3 | 14 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「また、この基本計画の具体的な施策の展開にあたっては、本市が策定する関連する個別計画とも十分に連携し計画を推進します。」と内容の追加を検討してほしい。</li> <li>・案文中には、障害者自立支援課が策定した計画、指針等の関係が明記されておらず、関係がよくわからないため、上記のような趣旨の文章による関係を明記することが必要。また、概要版には、『千葉市新基本計画』および『実施計画』が明記されていますが、本文には記載がない。誤植であれば修正が必要。多少なりとも関係を及ぼす可能性のある、または、連携が必要な大綱、計画、実行プランなどは明記して、その位置づけや関係性を文中に明記することが必要。</li> </ul>                                                                                                                                                            | <p>「また、この基本計画の具体的な施策展開にあたっては、本市が策定する関連する新基本計画等との整合性を配慮しつつ推進していきます。」と修正します。</p>                                                                                                                                   | 修正あり |
| 1 4 | 第 I 部<br>第 6 章<br>1 | 14 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「特別支援教育がスタートして10年たち千葉市において様々な取り組みがされてきましたが、現在、特別支援教育における施策と現場のニーズに急激な変化をもたらし、直面している喫緊の課題として、①特別な教育的ニーズのある児童生徒の急増、②児童生徒の急増と教員の大量退職により若手教員や特別支援教育の経験が少ない教員の増加、③医療の進歩や社会環境の変化により教育的ニーズの多様化・複雑化への対応等があげられます。」と表記の変更を検討してほしい。</li> <li>・案文の「大きな課題」というには、少々当たり障りの表現で現場のご苦勞や危機意識が十分に伝わってこない印象を受けるので、少々言葉を補い、全体的な印象を少々修正したほうがよいと思う。</li> <li>・また、③は、原文案にある「相談が急増していること」自体は課題ではなく、その「相談に対応できていないこと」が課題であると推測できるので、上記のように課題を明記すべき。ここは非常に大切な論点だと思うので、慎重かつ十分に注意を払い、修文の検討をお願いしたい。</li> </ul> | <p>「特別支援教育がスタートして10年たち本市においても様々な取組を行ってきましたが、現在、特別支援教育における施策と現場のニーズに急激な変化をもたらし、直面している喫緊の課題として、『特別な教育的ニーズのある児童生徒の急増』、『教員の大量退職による若手教員や特別支援教育の経験が少ない教員の増加』、『医療の進歩や社会環境の変化による教育的ニーズの多様化・複雑化への対応』等があげられます。」と修正します。</p> | 修正あり |

第Ⅱ部 各論に関する意見

「第1章 就学相談・教育相談」に関する意見

| No. | 項目                     | ページ | 意見                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 市の考え方                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 備考   |
|-----|------------------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 1   | 第Ⅱ部<br>第1章<br>第1節<br>1 | 19  | <p>厳密には特別支援教育の範疇ではないのかもしれないが、幼児期の支援の充実、その後の教育場面での適応を高めることにつながるため書かせて頂く。</p> <p>関係保護者等から届く情報や私自身が我が子の健診を体験した中で感じたこととして、千葉市の乳幼児健診の精度はかなり荒いと感じている。そのことを踏まえると、1歳6か月健診、3歳児健診の充実、将来的には年中後半での5歳児相談の実施は喫緊の課題と考える。</p> <p>千葉市では、成田市のような取り組みが私の知る範囲では行われていないように思われる。そのため、健診で“ちょっと気になる子”も積極的に拾い上げにくくなっているのではと考える。早期からの支援体制の整備として、乳幼児健診の充実とその後のフォローの体制充実を期待する。</p> | <p>保健福祉局、こども未来局、教育委員会の関係各課、学校等の関係機関で組織する「特別支援連携会議」で、検討課題としてまいります。</p>                                                                                                                                                                                                                                    | 修正なし |
| 2   | 第Ⅱ部<br>第1章<br>第2節<br>4 | 20  | <p>千葉市発達障害支援センターのライフサポートファイルを指しているのであれば、とても望ましいと思う。</p> <p>H34まで検討予定とのことだが、検討に数年かけるものではない。一年以内に終え、二年後には実施して戴きたい。すぐにでも千葉市発達障害支援センターに掛け合っていたきたい。</p>                                                                                                                                                                                                     | <p>平成29年度特別支援連携会議において、幼保版「個別の教育支援計画」の書式を作成し、小学校への引き継ぎに活用しました。発達障害者支援センターも確認をしているところです。ライフサポートファイルを活用できる方にはそれを使っていただければよいのですが、これまでの現状を考え、「個別の教育支援計画」をしっかりと作成・活用していくことで、児童生徒への支援が充実していくと考えています。</p> <p>平成34年度まで検討までとなっているところを、修正し、平成30年度には「修正・実施」とします。また、中学から高校へ、特別支援学校高等部から社会へという移行支援についても、検討してまいります。</p> | 修正あり |

|   |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                   |      |
|---|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 3 | 第Ⅱ部<br>第1章 | <p>早期からの教育相談と支援体制の充実に反対。今、早期からの教育相談によって、我が子のできないこと、遅れているところに目を向けられ、障害を否定的に捉える医学モデルの考えが親に植え付けられている。親は不安になり我が子は特別な療育が必要な特別な子供で、将来支援学級か支援学校に行くものと思ってしまう例が多発している。相談・支援の中で我が子（障害者）の権利を教えてもらったという例を知らない。権利を基盤としない相談・支援はするべきではない。早期からの相談・支援で早期からの分離が進んでいる。千葉市では子どもの障害を理由に、私立幼稚園の入所を断られることがあり、入所できる園に限られていたり、重度の子供は入所できなかったりという差別が存在しており、厳しい状況にある。幼稚園での入所差別が放置された状況では乳幼児期に行けるところが療育施設しかないということも起きうる。乳幼児期の支援としては、保育所・幼稚園の入所・入園差別をまずなくすべきである。特に保育所については、親の就労等で親が保育できない子供のみを対象にするのではなく、親の状況とは関係なく全児童対象にして保育を受ける権利をすべての子どもにゼロ歳から無償で保障することが何よりの充実した支援となる。さらに幼稚園に受諾義務を課すことで断られる子供がいなくなることも充実した支援となる。特別支援教育の充実ではなく一般の統合された乳幼児保育・教育施設の充実を図るべき。</p> | <p>早期からの教育相談と支援体制につきましては、必要と捉えております。</p> <p>乳幼児保育、教育施設の意見については、保健福祉局、こども未来局、教育委員会の関係各課、学校等の関係機関で組織する「特別支援連携会議」で、検討課題としてまいります。</p> | 修正なし |
|---|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|

「第2章 多様な学びの場の充実」に関する意見

| No. | 項目              | ページ | 意見                                                                                                                                                                                         | 市の考え方                                                                                                                                            | 備考   |
|-----|-----------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 1   | 第Ⅱ部<br>第2章      | 23  | これまでの環境面に重点を置いたユニバーサルデザインはどんどんやっていただくのはよい。しかしそれとは違う概念である「学びのユニバーサルデザイン」の導入を全ての通常の教室にお願いしたい。(再)                                                                                             | 「わかる授業」の推進に向けた課題として、「21世紀を拓く」では、「児童生徒の実態、『付きたい力』『ねらい』を明確にした指導計画の立案」、「児童生徒の長所や可能性、進歩の状況等を積極的に評価」等を挙げています。環境面だけでなく、児童生徒にとっての学び方、学びやすさについても検討しています。 | 修正なし |
| 2   | 第2章<br>第1節<br>3 | 23  | リソースルームの設置には、期待している。はっきりと支援が必要な児童・生徒に限らず、もしかしたら支援が必要ないかもしれないが、念のため、一応、指導してみよう、という場合にも利用できるようなものであって欲しい。<br>その場合も、しっかりWISCだけでなく必要な検査をして原因を特定できていることが自己肯定感を下げない為にも必要だと思う。検査等できる体制の構築もお願いしたい。 | リソースルームの設置については、各学校の個別支援の状況とその効果を確認しながら、検討していきます。<br>合わせて、「教育支援体制整備ガイドライン」(H29 文部科学省)をもとに、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制づくりをより積極的に推し進めていきたいと考えています。  | 修正なし |
| 3   | 第2章<br>第3節<br>3 | 26  | 巡回による指導についても期待しています。多くの児童・生徒が通級を利用する為の障壁を無くして行ってください。                                                                                                                                      | 今年度(30年度)モデル事業を、小学校(中央区、若葉区)、中学校(中央区)で実施しております。その成果と課題を整理しながら、整備してまいります。                                                                         | 修正なし |
| 4   | 第2章<br>第1節      | 23  | 通常学級での対応の充実を図ることは特別支援教育の充実の問題ではなく一般の教育制度の問題として語られるべきである。「合理的配慮」は非差別の概念であり、特別支援教育とは全く別の概念である。通常学級で差別なく平等に過ごせるようにすることであり、平等のための権利であり特別な支援ではない。                                               | ご意見として受け止め、参考にさせていただきます。<br>また「通常学級からの追い出し」については、これまで行っておりません。今後も行われることのないように指導してまいります。                                                          | 修正なし |

|   |                        |    |                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                       |      |
|---|------------------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 5 | 第2章<br>第1節             | 23 | <p>千葉県では、通常学級から特別支援学級や特別支援学校への強力な追い出しが日常的に行われている。その追い出しが通級や支援学校の高等部希望者が多くなる理由ともなっている。</p> <p>以下に実態の一部を述べる。実態は脅し、不安にさせて支援学級・学校へ追い出す、普通学級の居心地を悪くするなどの普通学級からの障害者排除であり、特別支援教育の推進は差別、人権侵害と一体となっている。教育者はこの真実から目をそらしてはいけない。</p>           |                                                                                                                                                                                                                                       | 修正なし |
| 6 | 第Ⅱ部<br>第2章<br>第2節      | 24 | <p>高校における通級制度に反対する。通級は分離であり、普通教育からの排除である。</p>                                                                                                                                                                                      | <p>保護者の必要感も多いことから、本人、保護者の希望を優先し、実施してまいります。</p>                                                                                                                                                                                        | 修正なし |
| 7 | 第Ⅱ部<br>第2章<br>第5節<br>1 | 28 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇〇(P)に示された『できるだけ児童生徒の居住地または近隣で、教育的ニーズに応じた指導が受けられるようにする』という方針に基づき(以下略)」と出典の明記を検討してほしい。</li> <li>・特別支援級や特別支援学校への入学を検討している児童生徒・保護者にとって非常に重要な方針であるが、出典が確認できなかったため、どうか出典を示していただきたい。</li> </ul> | <p>インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進の観点から、平成29年千葉県議会第4回定例会において、「児童生徒、保護者のニーズに応えながら、できるだけ学区や居住地に近い学校へ通うことができるよう設置を進めてまいります。」と教育長が答弁しています。</p> <p>出典となるものはないので、「できるだけ児童生徒の居住地または近隣で、教育的ニーズに応じた指導が受けられるように、必要に応じて特別支援学級を設置してきました。」と修正します。</p> | 修正あり |

|   |                        |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                          |      |
|---|------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 8 | 第Ⅱ部<br>第2章<br>第5節<br>1 | 28 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「特に近年は、医療の高度化に伴い、日常的な医療的ケアが必要な児童生徒の受入体制のニーズが急速に高まっています。本市においては、スクールメディカルサポート事業による医療的ケアを行う看護師の派遣体制を構築していますが、母子分離による受入体制の整備等、保護者のニーズとは未だ大きな乖離があるため、先進的なモデル事例や他自治体の効果的な事例等を参考にするなど、教育委員会、学校、主治医、保護者等が連携しながら、幅広い検討を通じた取り組みが必要です。」と内容の追加を検討してほしい。</li> <li>・学校教育における医療的ケアが必要な児童生徒の受け入れ態勢の整備および対応の必要性については、文部科学省「学校における医療的ケアの実施に関する検討会議」の議論を参照。あわせて、平成30年6月20日付、文部科学省初等中等教育局長発「学校における医療的ケアの実施に関する検討会議の中間まとめについて（通知）」を参照して補記・修文ができる箇所がないか、再精査をお願いしたい。</li> </ul> | <p>特別支援学級に限った内容ではないので、第1節1「校内支援体制の充実のために、特別支援教育指導員の配置及び学校訪問相談員、スクールメディカルサポーター（看護師）の派遣をしています。」と一部書き加えます。</p> <p>また、第6章第5節1についても、メディカルサポーターについて、修正します。</p> | 修正あり |
| 9 | 第Ⅱ部<br>第2章<br>第5節<br>2 | 28 | <p>「(1) 保護者や学校の要望に加え、本市関係部局や千葉県関連機関との連携を密にし、一人一人の教育的ニーズに応じられるように、特別支援学級を設置していきます。」と表記の変更を検討してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級の設置については、最終的な設置可否の検討・判断は教育委員会であることはさることながら、保護者や学校側の真のニーズに応じたきめ細やかな対応が可能になるよう、障害福祉部局や関係機関、主治医等との連携は必要不可欠である（平成30年6月20日付、文部科学省初等中等教育局長発「学校における医療的ケアの実施に関する検討会議の中間まとめについて（通知）」参照）。同様の趣旨が『千葉市における障害福祉施策に係る中長期方針』（策定：平成29年4月/所管：保健福祉局高齢障害部障害者自立支援課）にも明記されているので、本市の施策間連携の足並みをそろえるためにも本計画に明示して盛り込むべきと考える。</li> </ul>                                 | <p>「一人一人の教育的ニーズに応じられるように」していくことは、関係諸機関からの情報収集をしたり、連携を図ったりすることも含まれますので、表記は変更しません。</p> <p>特別支援学級・通級指導教室設置検討会議の中で、設置要望の理由等をこれまで同様確実に確認してまいります。</p>          | 修正なし |

|     |                        |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                     |      |
|-----|------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 1 0 | 第Ⅱ部<br>第2章<br>第5節<br>2 | 28 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「(2) 児童生徒の多様化するニーズに応じて、多様な教育課程を編成するとともに、医療的ケアへの対応をはじめとした受入体制の整備を推進します。」と表記の変更を検討してほしい。</li> <li>・学校教育における医療的ケアが必要な児童生徒の受け入れ態勢の整備および対応の必要性については、文部科学省「学校における医療的ケアの実施に関する検討会議」の議論を参照してほしい。あわせて、平成30年6月20日付、文部科学省初等中等教育局長発「学校における医療的ケアの実施に関する検討会議の中間まとめについて（通知）」を参照して補記・修文ができる箇所がないか、再精査をお願いしたい。【再掲】</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                              | <p>ここでは特別支援学級の教育課程について述べていますので、受入れ体制については言及しません。</p> <p>第6章第5節において、具体的な取組として「メディカルサポート事業の整備」と記載しております。</p> <p>「学校における医療的ケアの実施に関する検討会議の中間まとめ」については、記載はしませんが、参考にしながら確実にスクールメディカルサポート事業を推進してまいります。</p> | 修正なし |
| 1 1 | 第Ⅱ部<br>第2章<br>第5節<br>3 | 28 | <p>「○多様な教育課程および医療的ケアへの体制整備(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国（文部科学省）の学校における医療的ケアの検討状況に連携した取り組みの推進</li> <li>・先進的なモデル事例や他自治体の効果的な事例等の研究・導入検討」</li> </ul> <p>※次項4具体的な取組の目安もあわせて修正</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表記の変更および項目の追加を検討してください。</li> <li>・「医療的ケアが必要な児童生徒」の受入体制の整備については、厚生労働省障害保健福祉部による先進的なモデル事例の取り組みや、他自治体(政令指定都市クラス)において、学校教育における母子（保護者）分離の受入体制を整えるなど、ニーズに応じたきめ細やかな体制整備が進みつつある。</li> <li>・本市においても、国や全国的な取り組みの動向と連動して、効果的な施策を展開できるよう、さらに、同様の趣旨が『千葉市における障害福祉施策に係る中長期方針』（策定：平成29年4月/所管：保健福祉局高齢障害部障害者自立支援課）にも明記されている。本市の施策間連携の足並みをそろえるためにも本計画に明確に盛り込むべき。</li> </ul> | <p>医療的ケアの必要な児童生徒の受け入れについては、特別支援学級に限らないので、ここには明記しません。受け入れに際しては、保護者の方との協議を重ねつつ、支援体制の一層の充実に努めてまいります。</p>                                                                                               | 修正なし |

|     |                        |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                   |      |
|-----|------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 1 2 | 第Ⅱ部<br>第2章<br>第6節<br>1 | 29 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「また、県立千葉特別支援学校（小学部・中学部・高等部）には、千葉県在住の児童生徒が通学しており、過密化解消に向けた取り組みは、県教育委員会で検討されており、施設・設備の老朽化課題としてあげられています。」と表記の変更を検討してほしい。</li> <li>・「取り組み」の平仄を合わせてほしい。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                              | 「取組」と統一します。                                                                                       | 修正あり |
| 1 3 | 第Ⅱ部<br>第2章<br>第6節<br>1 | 29 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「○「できるだけ児童生徒の居住地または近隣で、教育的ニーズに応じた指導が受けられるようにする」という方針を最大限に尊重するよう努める一方、障害の程度や内容により、市外近隣の特別支援学校への通学が必要な児童生徒に対しては、スクールバス増便や障害の程度や医療的ケアへの対応等きめ細やかな対応も求められています。」と表記の変更を検討してほしい。</li> <li>・当所が2018年6月に実施したアンケート調査では、特別支援学校への進学を検討する児童生徒の保護者のうち、約4割強がスクールバス増便を希望し、児童生徒の障害程度に応じたきめ細やかな対応や医療的ケアの対応について何らかの不満や不安を感じ、対応・改善を望んでいる。</li> <li>・このような現状を明確に課題として認識し、本計画案に明記すべき。</li> </ul> | 県立特別支援学校における課題については、県として対応しています。本市としては、現状を把握しつつ、必要に応じて県と連携を図っていきたいと考えています。ご意見を受け止め、実態把握を進めてまいります。 | 修正なし |
| 1 4 | 第Ⅱ部<br>第2章<br>第6節<br>2 | 29 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「(3) 市内在住者の児童生徒が、千葉市外の特別支援学校への通学する際のスクールバスの利用について、身体的な負担等が軽減・改善するよう、県及び関係機関と連携して協議・検討を行います。」という項目の追記を検討してほしい。</li> <li>・当所が2018年6月に実施したアンケート調査では、特別支援学校への進学を検討する児童生徒の保護者のうち、約4割強がスクールバス増便を希望し、児童生徒の障害程度に応じたきめ細やかな対応や医療的ケアの対応について何らかの不満や不安を感じ、対応・改善を望んでいる。【再掲】</li> <li>・このような現状を明確に課題として認識し、本計画案に明記すべき。【再掲】</li> </ul>                                                     |                                                                                                   | 修正なし |

|     |                        |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |  |  |
|-----|------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|
| 1.5 | 第Ⅱ部<br>第2章<br>第6節<br>3 | 29 | <p>「〇市外特別支援学校へのスクールバス運用の拡充検討(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県及び関係機関と連携した協議・検討</li> <li>・先進的なモデル事例や他自治体の効果的な事例等の研究・導入検討」という項目の追記を検討してください。</li> <li>・当所が2018年6月に実施したアンケート調査では、特別支援学校への進学を検討する児童生徒の保護者のうち、約4割強がスクールバス増便を希望し、児童生徒の障害程度に応じたきめ細やかな対応や医療的ケアの対応について何らかの不満や不安を感じ、対応・改善を望んでいます。【再掲】</li> <li>・このような現状を明確に課題として認識し、本計画案に明記すべきです。【再掲】</li> </ul> |  |  |
|-----|------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|

「第3章 一貫した支援とネットワークづくり」に関する意見

| No. | 項目         | ページ | 意見                                                                                                                                                           | 市の考え方                                                                           | 備考   |
|-----|------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|------|
| 1   | 第3章<br>第1節 | 31  | <p>ヨコの連携について、基本計画でも触れられているが、特別な支援ニーズのある子どもの家庭は、複合的で多様な問題を抱えていることも多い。子どもや家庭の状況に応じて、医療、保健、福祉、教育等によるネットワーク体制を構築し、その中で学齢期には学校・教育が中核となり特別支援を推進するような連携体制を期待する。</p> | <p>「特別支援連携会議」を「特別支援連携協議会」と改め、より連携を密にすることで、複雑化、多様化するご家庭への支援にも当たれるようにしてまいります。</p> | 修正なし |

「第4章 教職員の専門性と指導力」に関する意見

| No. | 項目         | ページ | 意見                                                                               | 市の考え方                                                                            | 備考   |
|-----|------------|-----|----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|------|
| 1   | 第4章<br>第1節 | 35  | <p>発達障害などに対応できる教師の専門性を確保する。巡回指導員の拡充も大切だが、担任の専門性を高めるための研修、採用等数値目標を決めて実施してほしい。</p> | <p>計画にありますように、「『エリア方式』に基づき、各地域や校内での研修会を活発化」する等、研修の在り方を検討し、教職員の資質向上に努めてまいります。</p> | 修正なし |

「第5章 特別支援教育の周知と理解」に関する意見

| No. | 項目                     | ページ | 意見                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 市の考え方                                                                                                                                                  | 備考   |
|-----|------------------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 1   | 第Ⅱ部<br>第5章             | 37  | <p>・「特別支援教育の周知と環境整備」または「特別支援教育の周知・理解と環境整備」と表記の変更を検討してほしい。</p> <p>・本章の内容は、教育委員会の立場として本市特別支援教育における周知および環境の整備を推進する視点に立って記述されている。ついては、上記のように表記の修正をしたほうが本章の内容を適切に反映できるものと考える。</p> <p>・他方、「理解」にも重きを置く場合は、下段の表記への変更を検討してほしい。</p>                                                                                                      | 「第5章 特別支援教育の周知・理解と環境整備」と修正します。                                                                                                                         | 修正あり |
| 2   | 第Ⅱ部<br>第5章<br>第1節<br>2 | 38  | <p>「(1) 校長のリーダーシップの下、教職員には、インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育の理解促進を今後も図っていきます。」と表記の変更を検討してほしい。</p> <p>・文部科学省平成30年2月8日付29初特支第33号文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長、同教育課程課長、同幼児教育課長発「障害のある幼児児童生徒と障害のない幼児児童生徒の交流及び共同学習等の推進について(依頼)」には、障害者理解に係る指導について、左記のような表現を用いて依頼を发出しているため、本計画においても国の施策に呼応して本計画へ明記するとともに、実際の現場においても取り組みの推進者を明記することで施策の展開を一層後押しすべき。</p> | 「(1) 校長のリーダーシップの下、教職員には、インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育の理解促進を今後も図っていきます。」と修正します。                                                                             | 修正あり |
| 3   | 第Ⅱ部<br>第5章<br>第1節<br>3 | 38  | 「通常の学級においてユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を推進する。」とある。これまでの環境面に重点を置いたユニバーサルデザインはどんどんやっていただくのはよろしいと思うが、それとは違う概念である「学びのユニバーサルデザイン」の導入を全ての通常の教室にお願いしたい。(再)                                                                                                                                                                                    | 養護教育センターの専門研修「学級経営のユニバーサルデザイン」「授業のユニバーサルデザイン」は、の「授業UD学会」の理事等を講師としており、最先端の知見を学べる場としています。多くの教職員に積極的に受講してもらえるように周知しております。また、学校への訪問指導の際にも、話題にしていくようにしています。 | 修正なし |

|   |                        |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                           |      |
|---|------------------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|------|
| 4 | 第Ⅱ部<br>第5章<br>第3節<br>2 | 40 | <p>「(1) 合理的配慮の基礎となる、「基礎的環境整備」を継続して推進します。」と表記の変更を検討してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本計画の理念・趣旨を鑑み、言葉を補い、全体をより意をくむように表現を修正すべき。</li> <li>・本節の内容については、平成24年度中央教育審議会初等中等教育分科会で特別委員会が設置され、集中的に議論され、分かりやすい資料が公開されているので、関連資料を参照してほしい。</li> </ul>                                                                                          | <p>「(1) 合理的配慮の基礎となる「基礎的環境整備」を継続して推進していきます。」と修正します。</p>                    | 修正あり |
| 5 | 第Ⅱ部<br>第5章<br>第3節<br>2 | 40 | <p>「(2)児童生徒一人一人の障害の状態や教育的ニーズ等にきめ細やかに応じた、必要かつ合理的な配慮の提供を推進します。」と表記の変更を検討してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育においても、合理的配慮は、義務事項になりますので、案文の「図っていく」という表現は弱い印象である。</li> <li>・本計画の理念・趣旨を鑑み、言葉を補い、全体をより意をくむよう、表現を修正すべき。</li> <li>・本節の内容については、平成24年度中央教育審議会初等中等教育分科会で特別委員会が設置され、集中的に議論され、分かりやすい資料が公開されているの、関連資料を参照してほしい。【再掲】</li> </ul> | <p>「(2)児童生徒一人一人の障害の状態や教育的ニーズ等にきめ細やかに応じた、必要かつ合理的な配慮の提供をしていきます。」と修正します。</p> | 修正あり |
| 6 | 第Ⅱ部<br>第5章<br>第3節<br>3 | 40 | <p>「・各学校における教職員への合理的配慮の周知・理解の継続・徹底」と表記の変更を検討してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員に対して、周知の徹底のみならず、理解もしてもらえるような表現に変更を。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                   | <p>「・各学校における教職員への合理的配慮の周知・理解の継続・徹底」と修正します。</p>                            | 修正あり |
| 7 | 第Ⅱ部<br>第5章<br>第3節<br>3 | 40 | <p>「・合理的配慮に関する情報(資料や先進的な事例等)の収集と積極的な情報提供。」と表記の変更を検討してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「資料の収集と必要に応じた情報提供」という案文の表現は、共生社会の形成に向けた国民全体の共通理解を促進し、インクルーシブ教育システム構築の機運を高めることが求められている中、あまりにも手段を限定し、非常にネガティブな印象を受けた。</li> <li>・資料の収集にとどまらず、多様な情報を収集し、積極的な情報提供に努めてほしい。</li> </ul>                                                              | <p>「・合理的配慮に関する情報(資料や先進的な事例等)の収集と積極的な情報提供。」と修正します。</p>                     | 修正あり |

「第6章 養護教育センターの機能」に関する意見

| No. | 項目                | ページ | 意見                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 市の考え方                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 備考   |
|-----|-------------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 1   | 第Ⅱ部<br>第6章<br>第2節 | 43  | 言語聴覚士（ST）の配置検討は、必要と思いますが、併せて「作業療法士」の配置もお願いしたい。<br>じっとしていられない児童・生徒、書きの困難がある児童・生徒、距離感が一般と異なるが故に周囲の児童・生徒とトラブルが起こりがち等、DCDの可能性と視点も入れないと本当に多動なのかLDなのか自閉傾向なのか原因がわからない。児童・生徒に無駄に頑張らせる、努力させるのを避けるため必要である。                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 養護教育センターの相談の主訴を確認しながら、「作業療法士」や「理学療法士」についての必要性を検討してまいります。<br>「言語聴覚士等」と修正します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 修正あり |
| 2   | 第Ⅱ部<br>第6章<br>第3節 | 44  | 「授業のユニバーサルデザイン」と並べて「学びのユニバーサルデザイン」と記述されることを望む。学習につまずく前に、つまずかせない学習の提示と選択をさせることが必要だ。<br>通常学級の先生にこそやっていただきたい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | （再）養護教育センターの専門研修「学級経営のユニバーサルデザイン」「授業のユニバーサルデザイン」は、の「授業UD学会」の理事等を講師としており、最先端の知見を学べる場としています。多くの教職員に積極的に受講してもらえるように周知しております。また、学校への訪問指導の際にも、話題にしていくようにしています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 修正なし |
| 3   | 第Ⅱ部<br>第6章<br>第5節 | 46  | 通常学級在籍児に対する特別支援教育指導員の配置について。この仕組みがどういった手続きで行われているのかが、ホームページ等では把握できない。関係する保護者からの話では、保護者が配置を要求し、3回という回数制限のある中で利用していると聞いた。指導員の役割は重要だと思うが、一方で個別的な指導にとどまってしまうのではないかと、各保護者の要望に応えている限り膨大な人数になるのではないかと懸念がある。また、指導員がどういった指導を本人や学校に対して行っているのかが、保護者や関係機関は把握しにくいとも感じている。<br>一つの案として、訪問型の支援は基本的には学校が必要性を判断し要請する仕組みにし、指導員は個々の生徒のサポート的指導ではなく、個々の生徒の行動観察と実態把握（アセスメント）を中心に担い、それを受けて学校や学級担任、特別支援コーディネーターへの指導・助言に徹する方法もあるのではないかと、そのような仕組みの方が特別支援教育全体の底上げにつながるというのではないかと考える。指導員の増員と並行して、仕組みのあり方についても検討をお願いしたい。 | 特別支援教育指導員配置事業の趣旨は、通常の学級に在籍するADHD児等の障害のある児童生徒の内、学級での授業や活動に困難な状況にあり、緊急に対応が必要な児童生徒に対して、学級担任と協力して一人一人の教育的ニーズに対応した的確な指導が行えるよう、学校に一定期間、特別支援教育指導員を配置するとしています。<br>合わせて、配置の際の学校説明会においては、校内委員会への参加や特別支援教育コーディネーターとの連携を図る中で、校内支援体制構築のサポートをするために配置していると伝えています。<br>特別支援教育指導員の配置に際しては、配置期間中に学校訪問相談員が学校訪問を実施し、各学校に児童生徒の支援方法等についての助言と共に、校内支援体制づくりへの指導助言も行っています。特に配置終了後、指導員がいなくなった後の支援についての助言も行っています。<br>特別支援教育指導員の配置を希望する場合は、養護教育センターに相談をしていることが必要になります。担当の指導主事と指導員と学校訪問相談員とが、児童生徒の状況を多面的に捉えながら、支援をするためです。 | 修正なし |

|   |                        |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                               |      |
|---|------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 4 | 第Ⅱ部<br>第6章<br>第5節      | 46 | <p>「○スクールメディカルサポーター補助員制度（仮称）の検討(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に医療的ケアを行っている保護者が付添待機になった場合、「スクールメディカルサポーター補助員（仮称）」として特別支援教育における人的配置の補完的位置づけとして活用することを研究し、検討する。」という項目の追加を検討してほしい。</li> <li>・昨今の医療的ケアが必要な児童生徒の急増に対応すべく、日常的に医療的ケアを実施している保護者がサポートに回り、医療的ケアを支援する補助員として、主治医、看護師などの指導のもと、一定の要件を満たし、かつ希望する場合は、校内の医療的ケアのサポートに回るができる制度について、研究・検討することを盛り込んでいただきたい。</li> </ul> | ご意見につきましては、スクールメディカルサポート事業推進の中で検討してまいります。                                                                                                                                                     | 修正なし |
| 5 | 第Ⅱ部<br>第6章<br>第5節<br>1 | 46 | <p>「○スクールメディカルサポーター事業については、近年の医療的ケアが必要な児童生徒の増加に伴い、保護者の付き添いなしに学校で授業が受けることに対するニーズが高まり、期待が寄せられる一方、スクールメディカルサポーターの常駐は、未だに実現できていません。」という項目の追加を検討してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本項では、現状は列挙されているが、課題の記述がないため、左記の項目を追加してほしい。</li> </ul>                                                                                                                                  | 「○基礎的環境整備の一つである人材については、平成29年5月現在、緊急な対応が必要な児童生徒に35名の特別支援教育指導員を配置しています。また、小学校において常時介助が必要な児童に特別支援教育介助員を5名、医療的ケアが必要な児童に看護師を4名派遣しています。必要とされる児童生徒数に対して不足していたり、教育的ニーズに対応しきれていなかったりする現状があります。」と修正します。 | 修正あり |

## 「関係資料」に関する意見

| No. | 項目   | ページ | 意見                                                  | 市の考え方                                                                                      | 備考   |
|-----|------|-----|-----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 1   | 関係資料 | 50  | 千葉県発達障害支援連絡協議会には現在養護教育センターが参加されていますが、教育委員会は参加しないのか。 | 「養護教育センター」は、教育委員会所管となっております。教育委員会代表として、参加しています。「養護教育センター」は子育てアシスト等の事業にも協力しており、情報は共有されています。 | 修正なし |

|   |      |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                          |      |
|---|------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|------|
| 2 | 関係資料 | 50 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフには全て単位を付記してほしい。</li> <li>・白黒印刷をしても見やすいよう、原則、色分けでのグラフ区分はせずに塗りつぶしはパターンを使用し、各棒線は枠囲いしてほしい。</li> <li>・半角数字、全角数字が入り混じっている。平仄を整えてほしい。</li> <li>・グラフの書体を整えてほしい。</li> <li>・本基本計画策定後は、教育関係者のみならず、多くの市民、障害者およびその家族が目にするため、どうか分かりやすく編集をお願いしたい。</li> <li>・また、和暦・西暦は、可能な限り併記したほうが良いのではないかと思慮する。</li> </ul> | グラフ等を修正し、わかりやすくなるよう努めます。 | 修正あり |
|---|------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|------|

その他

| No. | 項目  | ページ | 意見                                                                                                                                                                                                                                                          | 市の考え方                                      | 備考 |
|-----|-----|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|----|
| 1   | その他 |     | <p><b>【各論部の補記・修文】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年6月20日付、文部科学省初等中等教育局長発「学校における医療的ケアの実施に関する検討会議の中間まとめについて（通知）」を参照のうえ、本市の取組み現状および課題について、補記・修文ができる箇所がないか、再精査のうえ、反映・修文をお願いしたい。</li> <li>・なお再精査にあたっては、障害福祉部局担当者との連携・確認をしていただきたい。</li> </ul> | 修正した推進基本計画につきましては、保健福祉局等にも確認した上で公表してまいります。 |    |



## ★教育委員会の事務点検・評価制度の概要★

- 1 対象年度 平成29年度
- 2 法令上の根拠 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 第26条
- 3 評価方法 教育委員会の権限に属する事項について、教育委員会が自らの事務の適切な執行について確認するとともに、点検・評価を行うに当たり、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図っている。  
※評価委員 学校教育分野：松尾 七重(まつお ななえ)氏  
千葉大学教育学部教授(教育学部副学部長) 専門：算数・数学教育学  
生涯学習分野：岩崎 久美子(いわさき くみこ)氏  
放送大学教授(前国立教育政策研究所総括研究官) 専門：生涯学習政策
- 4 重点的に評価する事業等【平成29年度の新規・拡充事業】※( )は評価委員が視察・現地ヒアリング
  - (1) 市独自の学級編制や教職員の配置(千葉市立小中台小学校)
  - (2) オリピック・パラリンピック教育の推進(千葉市立都立小学校)
  - (3) 加曽利貝塚博物館の積極的な活用(加曽利貝塚博物館)
  - (4) 千葉市科学館の管理運営(千葉市科学館)

## ★教育委員会による自己評価★

学校教育分野については、平成28年3月に策定した「第2次千葉市学校教育推進計画(H28年度～H33年度)」に基づき、生涯学習分野については、同じく平成28年3月に策定した「第5次千葉市生涯学習推進計画(H28年度～H33年度)」に基づき各施策を実施し、毎年度進捗状況を評価している。平成29年度は本計画の2年目であることから、前年度からの事業の継続状況を踏まえた評価を行った。また、本計画は中間年度での見直しをすることとしており、平成30年度に見直しを行うことから、計画の見直しを見据えた評価も行った。なお、「事務点検・評価」では、学校教育分野及び生涯学習分野全体の評価に加え、平成29年度の新規・拡充事業のうち4つの事業について重点的な評価を行った。評価の詳細は「事務点検・評価報告書(含進捗状況点検)」に記載している(ホームページに後日掲載)。

## 1 全体の評価について

## (1) 成果指標 ※別紙1-1(学校教育分野)、別紙2-1(生涯学習分野)を参照

学校教育分野では53項目のうち10項目で、生涯学習分野については10項目のうち4項目で平成29年度末現況値が平成30年度末目標値(中間目標)以上となっている(達成状況「◎」)。一方で、学校教育分野では27項目が、生涯学習分野では3項目が計画策定時の平成27年度末現況値を下回っている(達成状況「×」)現状である。いずれの分野においても、平成27年度末現況値を下回っているものについては、関連するアクションプランを推進し、中間目標値を達成できるよう努めていく。

なお、成果指標の数値データの出典などの関係で、現状値が未定なため達成状況が確認できないもの(達成状況「-」)が、学校教育分野で6項目、生涯学習分野で2項目ある。こちらについては、計画の見直しのなかで、成果指標の数値データの収集手段等について検討していく。

## (2) アクションプラン(個別具体事業) ※別紙1-2(学校教育分野)、別紙2-2(生涯学習分野)を参照

学校教育分野においては、全体の93%にあたる74の個別具体事業が概ね計画通り順調に進捗している一方で、6つの事業においては計画に対して進捗状況の遅れが生じている。生涯学習分野においては、全体の82%にあたる46の個別具体事業が概ね計画通り順調に進捗している一方で、7つの事業においては計画に対して進捗状況の遅れが生じ、3つの事業については平成29年度末時点で事業を休止している。いずれの分野においても、順調に進捗している事業については、中間目標及び最終目標を達成できるよう引き続き各事業の推進に努め、遅れが生じている事業や休止している事業については、計画の見直しのなかで今後の事業の進め方等について検討していく。

## 2 重点的に評価する事業等について

## (1) 市独自の学級編制や教職員の配置 (報告書P44・45)

県費負担教職員の給与負担などの委託に伴い、各学校の実情に応じて、少人数学級の拡大や少人数指導の活用、柔軟な教職員の配置などを実施したことにより、児童生徒一人ひとりに目が配りやすくなり、よりきめ細かな対応が可能となった。

## (2) オリピック・パラリンピック教育の推進 (報告書P12・13、P17・18、P26・27、P30・31)

バラスポーツの体験に加え、道德等の各教科との連携を取り入れた授業の実施や、食育と関連づけた学校給食でのオリピック・パラリンピック応援メニューの実施により、大会への関心を高めるだけでなく、多様性の理解や国際理解教育の推進にもつなげることができた。

## (3) 加曽利貝塚博物館の積極的な活用 (報告書P73・74)

加曽利貝塚は平成29年10月13日付けで国の特別史跡に指定された。縄文時代の理解を深める講座、展示解説及び集客イベントなどを積極的に実施したことにより、平成29年度の博物館入館者数は7万人を超え、加曽利貝塚の価値と魅力を多くの人に伝えることができた。

## (4) 千葉市科学館の管理運営 (報告書P75・76、P77・80)

千葉市科学館では開館当初の平成19年度より指定管理者制度を導入している。指定管理者のノウハウを活用することにより、様々なニーズへの対応や魅力的な事業が実施できている。また、千葉市科学フェスタの開催や積極的な広報を続けてきたことで、「科学都市ちば」の認知度、科学館の来館者数は増加している。

## ★有識者からの意見の概要★

## 松尾委員の意見(報告書(案)P92～94)

## 全体について(総合的所見)

- ・第2次千葉市学校教育推進計画の2年目にあたる平成29年度の各事業の取り組み状況は、事業の特性に応じて円滑に実施されており、概ね良好な成果を得ていると評価することができる。
- ・各アクションプランの進捗状況に対する自己評価では、今後の取り組みについてより具体的に検討し、次年度へと効率よくつなげられるようにすることが重要であろう。
- ・成果指標とアクションプランの対応づけをすることで、改善点への今後の対策が確実に結び付けられ、わかりやすくなると考えられる。
- ・各施策において、平成29年度の結果で望ましくない傾向が見られる指標や事業については原因の究明を行うとともに、短期間での推移では必ずしもその傾向を読み取ることは適切とは言えないため、状況を正確に把握しつつ、改善のための最善の方策を整える体制を整える必要がある。
- ・時代の流れの中で、急激に変わること、変わらないことを見出し、それに適切に対応すべく、事業全体を見通して改革すべき点を洗い出し、それを推進していくことが重要である。

## 市独自の学級編制や教職員の配置について

- ・少人数学級や少人数指導等において、学校の裁量に任せられることで弾力的な運用が可能となり、各学校の特性に合わせた活用ができるようになったことが高く評価できる。
- ・スクールカウンセラーの配置について、気軽に学校で専門家に相談できる取組みとして高く評価できる。担任との連携が取れることで子どもの状況への適切な対応が可能となることから、スクールカウンセラーの増員を行うことは重要な課題である。

## オリピック・パラリンピック教育の推進について

- ・各教科との連携を考慮して、小学校及び中学校の授業が工夫されている。  
(人との接し方、礼儀・挨拶などの道徳的内容の学習、食育に関わる世界の食に注目した総合的な学習など)
- ・2020年東京オリピック・パラリンピックの開催機運を盛り上げるだけに止まらず、健康教育を始め、多様性理解や国際理解教育等を推進し、教科横断的に関連教育を進めている点が評価できる。
- ・本事業に関する教育の成果を明らかにすることも同時に必要であることから、事業実施のみならず、成果の示し方の検討を行うことも重要であろう。

## ★岩崎委員の意見(報告書(案)P95～96)

## 全体について(総合的所見)

- ・青少年における生涯学習の推進について、子ども議会からの提案を子どもたちのワークショップで検討し実現していくなど、子どもの声を市政やまちづくりに反映できる仕組みがあり評価できる。
- ・成人における生涯学習の推進について、生涯学習センターにおける千葉公共職業安定所(ハローワーク千葉)との連携による就労支援講座など、就労を望む市民にとって適切な講座が展開されている。
- ・高齢者における生涯学習の推進については、生涯現役応援センターとの連携や、公民館や生涯学習センターの講座と、社会福祉協議会やいきいきプラザ等での講座との有機的な繋がりが求められる。
- ・手続きや様々な支援を同一の場所で可能とするワン・ストップ・サービスに、生涯学習活動に関わるサービスを組み入れることは有効であり、花見川区役所内に、みずほハスの花図書館を隣接させていることは、区役所に手続きに来た際に学習活動にも近づく機会を提供する先駆的な施策である。
- ・約8割の市民が生涯学習に関心を持っているという事実に対しては、そのニーズに応じた事業の企画・提供に専心することが肝要と思われる。学んだ成果を地域に還元できる具体的なメニューの提示も大事である。関心を持たない約2割の層に対しては、関心を持たない理由を明らかにし、その状況や必要に応じて学習活動への支援が行き届くような配慮が必要となる。

## 加曽利貝塚博物館の積極的な活用について

- ・職員の間で熱意により、定期イベントのコンテンツの充実や発掘体験・土偶ペーパークラフトなどの新規事業の拡充により、入館者及び講座等の参加人数が大幅に増加している。今後は、駐車場の確保、職員の勤務体制や施設ボランティアの充実なども考慮されたい。
- ・観光資源としてのみならず、加曽利貝塚の学術的価値や教育資源としての可能性について、国内外に積極的にアピールされたい。

## 千葉市科学館の管理運営について

- ・科学的な関心を喚起するために、館内の講座や企画展の他、ワークショップなどのアウトリーチ活動を行っていることが高く評価できる。
- ・指定管理者が入館者数の増加のみに終始せず、市民が喜ぶ企画展などのため、研修・研究の時間を取っていることは、科学という最先端の内容を市民に提供する最前線にいる者の使命を果たしていると言える。
- ・利用者満足度の向上や付加価値の高いコンテンツの実施により、「科学都市ちば」に在住する市民の科学に対する関心を喚起・充足しうよう、さらに努力を重ねられたい。



教育委員会事務点検・評価 成果指標(抜粋版)【学校教育分野】

※達成状況が「◎」「×」「－」となっているものを抜粋

別紙1-1

「◎」:H29年度末現状値がH30年度末目標値(中間目標)以上となっているもの【10指標】

「×」:H29年度末現状値がH27年度末現状値未満となっているもの【27指標】

「－」:H29年度末現状値が未定のもの【6指標】

| No.                       | 指標                         | 項目                  | H27末<br>(現状値)    | H28末<br>(現状値)    | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(現状値) | 達成<br>状況 | 達成状況の理由と今後の取組み                                                                                                                 |                                                                                                     |
|---------------------------|----------------------------|---------------------|------------------|------------------|----------------|----------------|---------------|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【施策1-1】<br>報告書(案)<br>P6-7 | 1                          | 学校の勉強が好きなと思う児童生徒の割合 | 小3               | 86.8%<br>(26年度末) | 87.0%          | 87.0%          | 88.0%         | 86.3%    | ×                                                                                                                              | わずかであるが数値の減少が見られる。勉強が「好き」になるように、学習指導の中で、教師が認めたり、ほめたりする場面を増やすとともに、個に応じた支援を行い、児童生徒が主体的に取り組む授業を目指していく。 |
|                           |                            | 小5                  | 77.3%<br>(26年度末) | 77.3%            | 78.0%          | 80.0%          | 76.9%         | ×        |                                                                                                                                |                                                                                                     |
| 千葉市学力状況調査                 |                            |                     |                  |                  |                |                |               |          |                                                                                                                                |                                                                                                     |
| 2                         | 全国学力・学習状況調査における全国平均正答率との比較 | 小6                  | +1.8             | 0                | +2.0           | +2.5           | +1.0          | ×        | 数値の減少がみられる。昨年度まで、各学校で調査結果の活用が十分に行われていなかったことが原因と考えられる。各学校で自校の課題を把握し、その改善に向けて「学力向上アクションプラン」を作成し、きめ細かな指導、繰り返し学習により基礎基本の定着を目指していく。 |                                                                                                     |
|                           |                            | 中3                  | +1.9             | +1.0             | +2.0           | +2.5           | 0             | ×        |                                                                                                                                |                                                                                                     |
| 全国学力・学習状況調査               |                            |                     |                  |                  |                |                |               |          |                                                                                                                                |                                                                                                     |

| No.                         | 指標                           | 項目                         | H27末<br>(現状値) | H28末<br>(現状値) | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(現状値) | 達成<br>状況 | 達成状況の理由と今後の取組み                                                                                                   |                                                                                                                                   |
|-----------------------------|------------------------------|----------------------------|---------------|---------------|----------------|----------------|---------------|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【施策1-2】<br>報告書(案)<br>P10-11 | 3                            | 自分の考えや意見を発表することが得意な児童生徒の割合 | 小6            | 49.0%         | 48.2%          | 51.0%          | 53.0%         | 48.2%    | ×                                                                                                                | 前年比で、H28は数値が下回っていたが、H29は同率若しくは微増と回復傾向にある。今後も引き続き、安心できる学級集団づくりやわかる授業づくりに取り組んでいく。特に、児童生徒が自分の意見を発表しやすいように、少人数グループでの話し合い活動を多く取り入れていく。 |
|                             |                              | 中3                         | 52.5%         | 50.8%         | 54.0%          | 55.0%          | 51.0%         | ×        |                                                                                                                  |                                                                                                                                   |
| 全国学力・学習状況調査                 |                              |                            |               |               |                |                |               |          |                                                                                                                  |                                                                                                                                   |
| 4                           | 中学校卒業段階で実用英語技能検定3級相当以上の生徒の割合 | 中3                         | 50.0%         | 46.6%         | 55.0%          | 60.0%          | 47.2%         | ×        | 前年比で、H28は数値が下回っていたが、H29は回復傾向にある。今後も、中学校の教員が小学校外国語活動を多顧し、小中連携を一層推進するとともに、教員の指導力向上に向けての研修を充実させることで、生徒の英語力向上を図っていく。 |                                                                                                                                   |
|                             |                              | 千葉市教育委員会教育指導課調べ            |               |               |                |                |               |          |                                                                                                                  |                                                                                                                                   |

| No.                         | 指標                        | 項目                           | H27末<br>(現状値)    | H28末<br>(現状値) | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(現状値) | 達成<br>状況 | 達成状況の理由と今後の取組み                                                                                                   |                                                                           |
|-----------------------------|---------------------------|------------------------------|------------------|---------------|----------------|----------------|---------------|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 【施策2-1】<br>報告書(案)<br>P15-16 | 5                         | 人の気持ちがわかる人間になんたいと強く思う児童生徒の割合 | 小6               | 70.7%         | -              | 75.0%          | 80.0%         | -        | -                                                                                                                | 指標としている項目が、調査項目から除外されたため現状値が把握できない。計画の見直しをなかで、成果指標の数値データの収集手段等について検討していく。 |
|                             |                           | 中3                           | 75.7%            | -             | 80.0%          | 85.0%          | -             | -        |                                                                                                                  |                                                                           |
| 全国学力・学習状況調査                 |                           |                              |                  |               |                |                |               |          |                                                                                                                  |                                                                           |
| 6                           | 人の役に立つ人間になりたいと強く思う児童生徒の割合 | 小6                           | 71.1%            | 70.8%         | 75.0%          | 80.0%          | 67.5%         | ×        | 数値が年々減少している。学校での縦割り活動の推進、地域行事への積極的な参加の呼びかけ、まちづくり推進事業のより一層の充実等により、児童生徒に他者から認められる体験を多く持たせていく。                      |                                                                           |
|                             |                           | 中3                           | 72.4%            | 67.1%         | 75.0%          | 80.0%          | 65.4%         | ×        |                                                                                                                  |                                                                           |
| 全国学力・学習状況調査                 |                           |                              |                  |               |                |                |               |          |                                                                                                                  |                                                                           |
| 7                           | 読書習慣のある児童生徒の割合            | 中2                           | 46.7%<br>(26年度末) | 44.4%         | 49.0%          | 52.5%          | 44.5%         | ×        | 前年比で、H28は数値が下回っていたが、H29は回復傾向にある。読書環境の整備、読書だよりを活用した意識の啓発、学校図書館指導員対象の研修会を通じた児童生徒の読書意欲を喚起する活動の工夫などにより読書活動の推進を図っていく。 |                                                                           |
|                             |                           | 千葉市学力状況調査                    |                  |               |                |                |               |          |                                                                                                                  |                                                                           |

| No.                         | 指標                                    | 項目                   | H27末<br>(現状値) | H28末<br>(現状値) | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(現状値) | 達成<br>状況 | 達成状況の理由と今後の取組み                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                     |
|-----------------------------|---------------------------------------|----------------------|---------------|---------------|----------------|----------------|---------------|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【施策2-2】<br>報告書(案)<br>P19-20 | 8                                     | 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合 | 小6            | 87.3%         | 85.9%          | 88.0%          | 90.0%         | 85.4%    | ×                                                                                                                                                                                    | 「将来、留学したり国際的な仕事につきたいか」への肯定的な回答は全国より7.6ポイント高いが他の項目については数値が下がっている。キャリア教育の必要性を認識した指導が必要である。教職員の意識向上に向け、キャリア教育主任研修会の充実や、総合的な学習の時間の部会等での具体的な取組例提示を行っていく。 |
|                             |                                       | 中3                   | 71.3%         | 69.3%         | 75.0%          | 78.0%          | 68.9%         | ×        |                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                     |
| 全国学力・学習状況調査                 |                                       |                      |               |               |                |                |               |          |                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                     |
| 9                           | 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している児童生徒の割合         | 小6                   | 74.8%         | 75.1%         | 76.0%          | 77.0%          | 74.4%         | ×        | 小6はH27より若干数値が減少している。児童同士が認め合える雰囲気づくりを進めるとともに、児童の実態を踏まえて設定した挑戦に対して前向き、認めながら指導していく。中3については、継続して見守っていく。                                                                                 |                                                                                                                                                     |
|                             |                                       | 中3                   | 70.2%         | 69.5%         | 71.0%          | 73.0%          | 71.0%         | ◎        |                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                     |
| 全国学力・学習状況調査                 |                                       |                      |               |               |                |                |               |          |                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                     |
| 10                          | 地域や社会をよくするために、何をすべきかを考えることができる児童生徒の割合 | 小6                   | 46.1%         | -             | 47.0%          | 48.0%          | 42.7%         | ×        | 関係団体とも連携を図りながら、子どもたちが、地域コミュニティの一員として、運動会や地域の祭りなどのイベントに積極的に参加し、地域住民との交流・対話の場を多く設定することなどにより、学校生活全体を通して、発達段階に応じて自分の役割を考えて行動する意識の醸成に努める。<br>※H28年度は、指標としている項目が調査項目から除外されたため現状値が把握できていない。 |                                                                                                                                                     |
|                             |                                       | 中3                   | 32.3%         | -             | 33.0%          | 35.0%          | 30.4%         | ×        |                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                     |
| 全国学力・学習状況調査                 |                                       |                      |               |               |                |                |               |          |                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                     |

| No.                         | 指標 | 項目              | H27末<br>(現状値) | H28末<br>(現状値) | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(現状値) | 達成<br>状況 | 達成状況の理由と今後の取組み |                                                                                                                |
|-----------------------------|----|-----------------|---------------|---------------|----------------|----------------|---------------|----------|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【施策3-1】<br>報告書(案)<br>P24-25 | 11 | 朝食を必ず食べる児童生徒の割合 | 小             | 90.8%         | 89.6%          | 98.0%          | 100.0%        | 90.1%    | ×              | H27末現状値を下回っているものの、H28末現状値は上回っていることから、今後の推移を見守るとともに、学校の実態に合わせた朝食指導について計画的に取り組む。児童生徒だけでなく、保護者の関心も高め、朝食喫食率を高めていく。 |
| 千葉市教育委員会保健体育課調べ             |    |                 |               |               |                |                |               |          |                |                                                                                                                |

| No.                         | 指標                 | 項目                | H27末<br>(現状値) | H28末<br>(現状値) | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(現状値) | 達成<br>状況 | 達成状況の理由と今後の取組み                                                                   |                                                                                                                                                                                                              |
|-----------------------------|--------------------|-------------------|---------------|---------------|----------------|----------------|---------------|----------|----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【施策3-2】<br>報告書(案)<br>P28-29 | 13                 | 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 | 小男子           | 81.2%         | 70.8%          | 91.6%          | 95.8%         | 75.0%    | ×                                                                                | 小学校男女共に「握力」と「ソフトボール投げ」で全国平均を下回ったものの、その他6項目で全国平均を上回った。中学校女子は、8項目すべてで全国平均を上回ることができた。中学校男子は、握力で全国平均を下回ったものの、その他7項目で全国平均を上回ることができた。今後は数値の減少の理由を検討するとともに、体育・保健体育学習や学校行事、運動部活動を含めた教育活動全体を通して、学校体育の充実を図り、体力の向上を目指す。 |
|                             |                    |                   | 小女子           | 93.7%         | 91.7%          | 97.9%          | 100.0%        | 75.0%    | ×                                                                                |                                                                                                                                                                                                              |
|                             |                    |                   | 中男子           | 58.3%         | 37.5%          | 66.6%          | 75.0%         | 87.5%    | ◎                                                                                |                                                                                                                                                                                                              |
|                             |                    |                   | 中女子           | 58.3%         | 75.0%          | 79.1%          | 87.5%         | 100.0%   | ◎                                                                                |                                                                                                                                                                                                              |
| 全国体力・運動能力、運動習慣等調査           |                    |                   |               |               |                |                |               |          |                                                                                  |                                                                                                                                                                                                              |
| 14                          | 1週間の総運動時間が60分以上の割合 | 小5男子              | 94.6%         | 94.6%         | 95.6%          | 96.7%          | 93.8%         | ×        | H27末、H28末現状値からの減少が僅かであることから、今後の推移を見守るとともに、教育活動全体を通して、学校体育の充実を図り、運動が好きな子どもの育成を図る。 |                                                                                                                                                                                                              |
|                             |                    | 中2男子              | 91.6%         | 92.7%         | 92.0%          | 92.7%          | 93.0%         | ◎        |                                                                                  |                                                                                                                                                                                                              |
|                             |                    | 中2女子              | 80.5%         | 80.6%         | 81.7%          | 84.5%          | 82.5%         | ◎        |                                                                                  |                                                                                                                                                                                                              |
| 全国体力・運動能力、運動習慣等調査           |                    |                   |               |               |                |                |               |          |                                                                                  |                                                                                                                                                                                                              |

| No.                         | 指標                 | 項目                           | H27末<br>(現状値)    | H28末<br>(現状値) | H30末<br>(中間目標)   | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(現状値) | 達成<br>状況                                                                                  | 達成状況の理由と今後の取組み                                                                                 |
|-----------------------------|--------------------|------------------------------|------------------|---------------|------------------|----------------|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【施策4-1】<br>報告書(案)<br>P32-33 | 15                 | 学校での子どもの安全が守られていると感じている市民の割合 | 61.7%<br>(26年度末) | -             | 63.0%<br>(29年度末) | 65.0%          | -             | -                                                                                         | 「市民1万人のまちづくりアンケート」の見直しに伴いアンケート未実施のため、H29末現状値が把握できない。<br>計画の見直しのなかで、成果指標の数値データの収集手段等について検討していく。 |
|                             |                    | 市民1万人のまちづくりアンケート             |                  |               |                  |                |               |                                                                                           |                                                                                                |
| 16                          | 学校セーフティウォッチャーの登録者数 | 26,855人<br>(26年度末)           | 26,469人          | 30,000人       | 30,000人          | 25,800人        | ×             | 児童生徒数の減少や地域の方の高齢化により登録者が減少する学校が増えている。<br>保護者会等への働きかけを強化するとともに、地域との連携を深め、地域全体で見守る意識を高めていく。 |                                                                                                |
|                             |                    | 千葉市教育委員会学事課調べ                |                  |               |                  |                |               |                                                                                           |                                                                                                |

| No.                      | 指標 | 項目                                       | H27末<br>(現状値)    | H28末<br>(現状値) | H30末<br>(中間目標)   | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(現状値) | 達成<br>状況 | 達成状況の理由と今後の取組み                                                                                 |
|--------------------------|----|------------------------------------------|------------------|---------------|------------------|----------------|---------------|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【施策4-2】<br>報告書(案)<br>P36 | 17 | こどもが、学校でいきいきと学び、心身ともに健やかに成長していると感じる市民の割合 | 77.4%<br>(26年度末) | -             | 78.0%<br>(29年度末) | 80.0%          | -             | -        | 「市民1万人のまちづくりアンケート」の見直しに伴いアンケート未実施のため、H29末現状値が把握できない。<br>計画の見直しのなかで、成果指標の数値データの収集手段等について検討していく。 |
| 市民1万人のまちづくりアンケート         |    |                                          |                  |               |                  |                |               |          |                                                                                                |

| No.                         | 指標 | 項目                | H27末<br>(現状値)    | H28末<br>(現状値) | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(現状値) | 達成<br>状況 | 達成状況の理由と今後の取組み                                                                                                          |
|-----------------------------|----|-------------------|------------------|---------------|----------------|----------------|---------------|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【施策5-1】<br>報告書(案)<br>P39-40 | 18 | 学校の勉強がよくなる児童生徒の割合 | 90.6%<br>(26年度末) | 90.6%         | 91.0%          | 92.0%          | 90.4%         | ×        | 若干の数値の減少が見られるが、「わかる授業」の実現へ向け、これまで以上に授業の工夫・改善を行うとともに指導力の向上を図っていく。特に千葉市学校教育の課題「21世紀を拓く」の活用を推進し、各教科等において課題解決に向けた指導及び実践を行う。 |
| 千葉市学力状況調査                   |    |                   |                  |               |                |                |               |          |                                                                                                                         |

| No.                      | 指標 | 項目                                    | H27末<br>(現状値)           | H28末<br>(現状値) | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(現状値) | 達成<br>状況 | 達成状況の理由と今後の取組み                                                                                     |
|--------------------------|----|---------------------------------------|-------------------------|---------------|----------------|----------------|---------------|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【施策5-2】<br>報告書(案)<br>P43 | 19 | 様々な取組みが、子どもと向き合う時間の確保に有効であったと感じる教員の割合 | 70.8%<br>(26年度末<br>参考値) | 74.7%         | 85.0%          | 95.0%          | 68.5%         | ×        | 数値の減少の理由は、これまでの取組みが定着したことにより、前年度までと比較して、大きな変化を感じた教員が減少した結果と考えられる。引き続き、学校現場における業務改善のための様々な取組みを推進する。 |
| 千葉市教育委員会教育職員課調べ          |    |                                       |                         |               |                |                |               |          |                                                                                                    |

| No.                         | 指標 | 項目                             | H27末<br>(現状値) | H28末<br>(現状値) | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(現状値) | 達成<br>状況 | 達成状況の理由と今後の取組み                                                                                          |
|-----------------------------|----|--------------------------------|---------------|---------------|----------------|----------------|---------------|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【施策6-1】<br>報告書(案)<br>P46-47 | 20 | 小・中学校における特別支援学校の個別の教育支援計画作成の割合 | 39.1%         | 84.4%         | 85.0%          | 95.0%          | 95.3%         | ◎        | 昨年度に引き続き、特別支援学校等担当者研修会、特別支援教育コーディネーター研究協議会等で呼びかけるとともに、管理職、教務主任、養護教諭にも呼びかけるようにしたため、個別の教育支援計画を策定する学校が増えた。 |
| 千葉市教育委員会教育支援課調べ             |    |                                |               |               |                |                |               |          |                                                                                                         |

| No.                         | 指標                   | 項目                    | H27末<br>(現状値)    | H28末<br>(現状値) | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標)   | H29末<br>(現状値) | 進捗<br>状況                                                                                            | 達成状況の理由と今後の取組み                                                                                                 |
|-----------------------------|----------------------|-----------------------|------------------|---------------|----------------|------------------|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【施策6-2】<br>報告書(案)<br>P51-52 | 22                   | 学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合  | 小6<br>86.4%      | 84.5%         | 88.0%          | 90.0%            | 84.0%         | ×                                                                                                   | 数値が年々減少している理由は学習内容の理解との関連が大きいと考える。今後、教員の指導力向上やきめ細かな指導の充実を図るとともに、児童生徒の自己有用感が高まるような言葉がけや主体的な学びになるような授業の工夫を図っていく。 |
|                             |                      | 中3<br>81.5%           | 79.6%            | 83.0%         | 85.0%          | 78.9%            | ×             |                                                                                                     |                                                                                                                |
| 全国学力・学習状況調査                 |                      |                       |                  |               |                |                  |               |                                                                                                     |                                                                                                                |
| 23                          | 全児童生徒数に対する不登校児童生徒の割合 | 小<br>0.46%<br>(26年度末) | 0.49%<br>(27年度末) | 0.40%         | 0.35%          | 0.52%<br>(28年度末) | ×             | 不登校児童生徒の割合は、年々増加傾向にあることから、未然防止、早期発見、長期的な視野に立ち対応できるよう、専門的な知識や豊かな経験を活用する人材の活用を図るとともに、各学校に対しての指導を促進する。 |                                                                                                                |
|                             |                      | 中<br>2.38%<br>(26年度末) | 2.49%<br>(27年度末) | 2.25%         | 2.20%          | 2.67%<br>(28年度末) | ×             |                                                                                                     |                                                                                                                |
| 千葉市教育委員会教育支援課調べ             |                      |                       |                  |               |                |                  |               |                                                                                                     |                                                                                                                |
| 24                          | いじめ解消率               | 小<br>82.2%<br>(26年度末) | 87.9%<br>(27年度末) | 86.0%         | 90.0%          | 89.2%<br>(28年度末) | ◎             | 各学校において「学校いじめ防止基本方針」に基づいた早期発見・早期対応の充実が進んでいることや、教職員のいじめ問題に対する意識の向上が図られているため。                         |                                                                                                                |
|                             |                      | 中<br>80.3%<br>(26年度末) | 89.6%<br>(27年度末) | 84.0%         | 87.0%          | 91.7%<br>(28年度末) | ◎             |                                                                                                     |                                                                                                                |
| 千葉市教育委員会教育支援課調べ             |                      |                       |                  |               |                |                  |               |                                                                                                     |                                                                                                                |

| No.                         | 指標                             | 項目                                 | H27末<br>(現状値) | H28末<br>(現状値) | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(現状値) | 達成<br>状況                                                    | 達成状況の理由と今後の取組み                                                            |
|-----------------------------|--------------------------------|------------------------------------|---------------|---------------|----------------|----------------|---------------|-------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 【施策6-3】<br>報告書(案)<br>P55-56 | 25                             | 家で、自分で計画を立てて勉強することを中心としていない児童生徒の割合 | 10.3%         | 10.7%         | 10.0%          | 9.0%           | 10.7%         | ×                                                           | 「計画的に勉強しない児童生徒の割合」が、H27と比較すると僅かながら上がっている。各学校における家庭学習の推進のために工夫した事例を紹介していく。 |
| 全国学力・学習状況調査                 |                                |                                    |               |               |                |                |               |                                                             |                                                                           |
| 26                          | 日本語指導が必要な外国・外国人児童生徒で指導を受けている割合 | 小<br>90.5%<br>(26年度末)              | 90.8%         | 91.0%         | 92.0%          | 91.4%          | ◎             | 外国人児童生徒指導協力員の派遣や日本語通級指導教室の設置により、日本語指導が必要な児童生徒への支援が図られているため。 |                                                                           |
|                             |                                | 中<br>93.4%<br>(26年度末)              | 93.7%         | 94.0%         | 95.0%          | 98.5%          | ◎             |                                                             |                                                                           |
| 千葉市教育委員会教育指導課調べ             |                                |                                    |               |               |                |                |               |                                                             |                                                                           |

| No.                         | 指標                       | 項目                              | H27末<br>(現状値)    | H28末<br>(現状値)    | H30末<br>(中間目標)   | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(現状値) | 達成<br>状況                                                                                       | 達成状況の理由と今後の取組み                                                                                 |
|-----------------------------|--------------------------|---------------------------------|------------------|------------------|------------------|----------------|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【施策7-1】<br>報告書(案)<br>P59-60 | 27                       | 日頃、地域でこどもへの声かけや見守り活動を行っている市民の割合 | 13.8%<br>(26年度末) | -                | 19.0%<br>(29年度末) | 20.0%          | -             | -                                                                                              | 「市民1万人のまちづくりアンケート」の見直しに伴いアンケート未実施のため、H29末現状値が把握できない。<br>計画の見直しのなかで、成果指標の数値データの収集手段等について検討していく。 |
|                             |                          | 市民1万人のまちづくりアンケート                |                  |                  |                  |                |               |                                                                                                |                                                                                                |
| 28                          | 市内の学校は地域に開かれていると感じる市民の割合 | 40.0%<br>(26年度末)                | -                | 50.0%<br>(29年度末) | 60.0%            | -              | -             | 「市民1万人のまちづくりアンケート」の見直しに伴いアンケート未実施のため、H29末現状値が把握できない。<br>計画の見直しのなかで、成果指標の数値データの収集手段等について検討していく。 |                                                                                                |
|                             |                          | 市民1万人のまちづくりアンケート                |                  |                  |                  |                |               |                                                                                                |                                                                                                |

教育委員会事務点検・評価 アクションプラン(抜粋版)【学校教育分野】  
 ※進捗状況が「遅れ」となっているものだけを抜粋

別紙1-2

| No.                       | 事業名 | 新規・拡充項目<br>継続                                  | H27末<br>(現状値)                | H28末<br>(実績)                 | H30末<br>(中間目標)             | H33末<br>(最終目標)             | H29末<br>(実績)                 | 進捗<br>状況 | 進捗状況「遅れ」の理由と今後の取組み                                                                                                               |
|---------------------------|-----|------------------------------------------------|------------------------------|------------------------------|----------------------------|----------------------------|------------------------------|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【施策1-1】<br>報告書(案)<br>P8-9 | 6   | 情報教育機器の整備・充実<br>小学校PC教室の<br>端末刷新<br>タブレットPCの整備 | 106校<br>20台/校<br>6校<br>40台/校 | 106校<br>20台/校<br>6校<br>40台/校 | 全校<br>40台/校<br>(移動型端<br>末) | 全校<br>40台/校<br>(移動型端<br>末) | 106校<br>20台/校<br>6校<br>40台/校 | 遅れ       | 平成32年1月の次期システムの更新に向けて策定した「千葉市教育情報ネットワーク整備計画」のなかで、情報教育機器の整備・充実の再検討を行ったため。今後は、次期システム更新に向けて具体的な工程に着手する。<br>(平成29年度は、上記の整備計画策定作業を実施) |

| No.                                   | 事業名 | 新規・拡充項目<br>継続              | H27末<br>(現状値) | H28末<br>(実績) | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(実績) | 進捗<br>状況 | 進捗状況「遅れ」の理由と今後の取組み                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------------------|-----|----------------------------|---------------|--------------|----------------|----------------|--------------|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【施策1-2】<br>報告書(案)<br>P12-13<br>P77、80 | 7   | 未来の科学者育成プログラム<br>ジュニア講座受講者 | 50人           | 66人          | 80人            | 100人           | 42人          | 遅れ       | 「遅れ」の理由としては、募集チラシの配布が各小学校の5、6年生の学級数分だったため、保護者の目に触れにくかったことが考えられる。来年度は各小学校の5、6年生の児童数分を配布し、保護者への認知度を上げるようにする。また児童のニーズに沿った講座を準備するため、保護者アンケートでも希望があった野外観察を取り入れた新規講座を30年度に千葉市動物公園にて立ち上げる。ジュニア講座の受講生が未来の科学者を目指す意欲を高めるとともに、中・高生対象の未来の科学者育成プログラムの受講につながるように努める。また、30年度秋の講座より、募集を電子申請でも対応できるようにする。 |

| No.                         | 事業名 | 新規・拡充項目<br>継続                | H27末<br>(現状値) | H28末<br>(実績) | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(実績)   | 進捗<br>状況      | 進捗状況「遅れ」の理由と今後の取組み |                                                                                                         |
|-----------------------------|-----|------------------------------|---------------|--------------|----------------|----------------|----------------|---------------|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【施策4-1】<br>報告書(案)<br>P34-35 | 1   | 学校施設<br>の環境整備<br>(老朽化<br>対策) | 外壁改修<br>大規模改修 | 11.3%<br>—   | 21.3%<br>0.0%  | 31.3%<br>3.3%  | 44.7%<br>20.4% | 26.0%<br>1.3% | 遅れ                 | 大規模改修について、国費の採択が当初の想定を下回ったことを受け、事業量の見直しを行ったため。学校施設の老朽化対策では、著しい劣化等もあり事業費が増加しているが、喫緊の課題として捉え、早期改善を目指していく。 |

| No.                         | 事業名 | 新規・拡充項目<br>継続           | H27末<br>(現状値)       | H28末<br>(実績) | H30末<br>(中間目標)                          | H33末<br>(最終目標)                               | H29末<br>(実績)                                | 進捗<br>状況                                  | 進捗状況「遅れ」の理由と今後の取組み |                                                                                                 |
|-----------------------------|-----|-------------------------|---------------------|--------------|-----------------------------------------|----------------------------------------------|---------------------------------------------|-------------------------------------------|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【施策4-2】<br>報告書(案)<br>P37-38 | 1   | 学校施設<br>の環境整備<br>(質的整備) | トイレ改修<br>音楽室等エアコン整備 | —<br>—       | 3.4%<br>小学校 0%<br>中学校 50%<br>特別支援学校100% | 34.4%<br>小学校 64.3%<br>中学校 100%<br>特別支援学校100% | 66.6%<br>小学校 100%<br>中学校 100%<br>特別支援学校100% | 14.9%<br>小学校 0%<br>中学校 100%<br>特別支援学校100% | 遅れ                 | 国費の採択が当初の想定を下回ったことを受け、事業量の見直しを行ったため。学校施設の質的整備においては、著しい劣化等もあり事業費が増加しているが、喫緊の課題として捉え、早期改善を目指していく。 |

| No.                         | 事業名 | 新規・拡充項目<br>継続  | H27末<br>(現状値) | H28末<br>(実績) | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(実績) | 進捗<br>状況     | 進捗状況「遅れ」の理由と今後の取組み |                                                                                                                              |
|-----------------------------|-----|----------------|---------------|--------------|----------------|----------------|--------------|--------------|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【施策5-2】<br>報告書(案)<br>P44-45 | 3   | 情報教育機器の充実(校務用) | 校務用PCの整備      | 整備率<br>84.7% | 整備率<br>84.7%   | 整備率<br>96.4%   | 整備率<br>100%  | 整備率<br>84.7% | 遅れ                 | 平成32年1月の次期システムの更新に向けて策定した「千葉市教育情報ネットワーク整備計画」のなかで、校務用PCの整備の再検討を行ったため。今後は、次期システム更新に向けて具体的な工程に着手する。<br>(平成29年度は、上記の整備計画策定作業を実施) |

| No.                                   | 事業名 | 新規・拡充項目<br>継続 | H27末<br>(現状値) | H28末<br>(実績)                 | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(実績)           | 進捗<br>状況 | 進捗状況「遅れ」の理由と今後の取組み |                                                                                                                                                                             |
|---------------------------------------|-----|---------------|---------------|------------------------------|----------------|----------------|------------------------|----------|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【施策7-1】<br>報告書(案)<br>P61-62<br>P77、81 | 2   | 放課後子ども教室の推進   | 実施日数          | 21.2日/校<br>(H26)<br>ニーズ調査の実施 | 19.8日/校        | 30.0日/校        | 前半3カ年の取組状況を踏まえ、見直し時に設定 | 19.8日/校  | 遅れ                 | 高齢化や共働き世帯の増加により協力員等の担い手が不足する中、安全管理やプログラム開発等での地域への負担が増大し、実施日数が伸び悩んでいる。企業等による質の高い継続プログラムを実施するとともに、総合コーディネーターによる活動支援を継続し、実施日数の増加を図る。<br>また、「(仮称)放課後子どもプラン」を策定し、今後の事業展開の方向性を示す。 |



教育委員会事務点検・評価 成果指標(抜粋版)【生涯学習分野】

※達成状況が「◎」「×」「-」となっているものだけを抜粋

「◎」:H29年度末現況値がH30年度末目標値(中間目標)以上となっているもの【4指標】

「×」:H29年度末現況値がH27年度末現況値未満となっているもの【3指標】

「-」:H29年度末現況値が未定のもの【2指標】

別紙2-1

【施策1-1】  
報告書(案)  
P64-65

| No. | 指標                         | H27末<br>(現況値) | H28末<br>(現況値) | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(現況値) | 達成<br>状況 | 達成状況の理由と今後の取組み                                                                                                                                                 |
|-----|----------------------------|---------------|---------------|----------------|----------------|---------------|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 生涯学習に関心のある市民の割合            | 76.9%         | 80.5%         | 83.0%          | 90.0%          | 75.9%         | ×        | WEBアンケート<br>各種媒体による学ぶ場と学ぶための情報提供や、生涯学習イベント開催は継続して実施しているが、平成29年度末に行ったWEBアンケートの割合は、平成28年度末に比べ、4.6ポイント下降した。各種事業の実施や、生涯学習に関する情報提供などにより、生涯学習に関心のある市民の割合が増えるよう努めていく。 |
| 2   | 生涯学習に関する情報が充実していると感じる市民の割合 | 56.4%         | 19.3%         | 60.0%          | 70.0%          | 22.0%         | ×        |                                                                                                                                                                |

【施策1-2】  
報告書(案)  
P68

| No. | 指標                                | H27末<br>(現況値) | H28末<br>(現況値) | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(現況値) | 達成<br>状況 | 達成状況の理由と今後の取組み                                                              |
|-----|-----------------------------------|---------------|---------------|----------------|----------------|---------------|----------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 3   | 市の生涯学習施設が5年前よりも利用しやすくなったと考える市民の割合 | 31.5%         | -             | 36.0%          | 40.0%          | -             | -        | 生涯学習関係団体アンケートは各目標年度に実施のため、平成29年度は未実施であり、達成状況を確認できない。引き続き、関連するアクションプランを推進する。 |
| 4   | 生涯学習施設を年1回以上利用したことのある市民の割合        | 44.1%         | -             | 50.0%          | 60.0%          | 73.1%         | ◎        |                                                                             |

【施策2-1】  
報告書(案)  
P72

| No. | 指標                    | H27末<br>(現況値) | H28末<br>(現況値) | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(現況値) | 達成<br>状況 | 達成状況の理由と今後の取組み                                                                            |
|-----|-----------------------|---------------|---------------|----------------|----------------|---------------|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5   | 郷土の歴史や文化財に愛着を感じる市民の割合 | 38.3%         | -             | 47.5%          | 50.0%          | 55.7%         | ◎        | 国の特別史跡となった加曾利塚や千葉市の礎を築いた千葉氏などを筆頭に、PRイベントや普及活動を積極的に行った結果、郷土の歴史や文化財に対する市民の興味・関心が高まったと考えられる。 |

【施策2-2】  
報告書(案)  
P75-76

| No. | 指標           | H27末<br>(現況値) | H28末<br>(現況値) | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(現況値) | 達成<br>状況 | 達成状況の理由と今後の取組み                                                                                                              |
|-----|--------------|---------------|---------------|----------------|----------------|---------------|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7   | 「科学都市ちば」の認知度 | 38.6%         | 55.6%         | 43.0%          | 50.0%          | 56.7%         | ◎        | 積極的な広報を続けてきたことで、「科学都市ちば」の認知度が半数以上になった。千葉市科学フェスタメインイベントの充実や、年間を通して各公民館等で開催されるサテライトイベントの充実、科学館事業の充実などにより、「科学都市ちば」の認知度を維持していく。 |

【施策3-1】  
報告書(案)  
P82

| No. | 指標                     | H27末<br>(現況値) | H28末<br>(現況値) | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(現況値) | 達成<br>状況 | 達成状況の理由と今後の取組み                                                                                                                                              |
|-----|------------------------|---------------|---------------|----------------|----------------|---------------|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8   | 市民のボランティア活動・地域活動への参加状況 | 16.4%         | 21.9%         | 23.0%          | 30.0%          | 13.5%         | ×        | 団体・グループ活動のリーダーやボランティアの育成、家庭教育支援事業の実施を引き続き実施しているが、事業によっては参加者や登録者の伸び悩みが見え、市民のボランティア活動・地域活動への参加状況は下降している。ボランティアの活動機会を増やすこと、実施するイベントの広報PRに努め、地域における学習活動の活性化を図る。 |

【施策3-2】  
報告書(案)  
P85

| No. | 指標                     | H27末<br>(現況値) | H28末<br>(現況値) | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(現況値) | 達成<br>状況 | 達成状況の理由と今後の取組み                                                              |
|-----|------------------------|---------------|---------------|----------------|----------------|---------------|----------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 9   | 年2回以上学習成果を地域に還元する団体の割合 | 43.7%         | -             | 47.0%          | 50.0%          | -             | -        | 生涯学習関係団体アンケートは各目標年度に実施のため、平成29年度は未実施であり、達成状況を確認できない。引き続き、関連するアクションプランを推進する。 |

【施策3-3】  
報告書(案)  
P89

| No. | 指標                            | H27末<br>(現況値) | H28末<br>(現況値) | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(現況値) | 達成<br>状況 | 達成状況の理由と今後の取組み                                                                                                                                                                                        |
|-----|-------------------------------|---------------|---------------|----------------|----------------|---------------|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10  | 住民同士で地域課題の解決に取り組んでいると考える市民の割合 | 24.3%         | -             | 27.0%          | 30.0%          | 28.9          | ◎        | 平成29年度末に行ったWEBアンケートにおいて、住民同士で地域課題の解決に取り組んでいると考える市民の割合は、平成27年度末に比べて4.6ポイント上昇した。なお、「市民1万人のまちづくりアンケート」の質問内容変更により、平成29年度から「WEBアンケート」により調査を行っている。地域が自主的に取り組む学習活動、地域で活動する団体相互の連携を支援し、市民の参加・共同による学習活動の推進を図る。 |



教育委員会事務点検・評価 アクションプラン(抜粋版)【生涯学習分野】

※進捗状況が「遅れ」「休止」となっているものだけを抜粋

「休止」: 事業を休止し、次年度以降に再び実施する予定のもの【2事業】

別紙2-2

| No.                         | 事業名 | 新規・拡充項目<br>継続          | H27末<br>(現状値)                        | H28末<br>(実績) | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(実績) | 進捗<br>状況 | 進捗状況「休止」の理由と今後の取組み |                                                             |
|-----------------------------|-----|------------------------|--------------------------------------|--------------|----------------|----------------|--------------|----------|--------------------|-------------------------------------------------------------|
| 【施策1-2】<br>報告書(案)<br>P69-71 | 6   | 中央図書館・生涯学習センター等<br>の改修 | 南部青少年センター・みやこ図書館<br>白旗分館 受水槽<br>更新工事 | -            | -              | 実施設計、<br>工事    | 工事完了済        | -        | 休止                 | 南部青少年センターみやこ図書館白旗分館の受水槽更新工事については、緊急性が低いとの判断から、改修の実施を先送りとした。 |

| No.                         | 事業名 | 新規・拡充項目<br>継続        | H27末<br>(現状値)    | H28末<br>(実績)  | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標)               | H29末<br>(実績)                   | 進捗<br>状況                        | 進捗状況「休止」の理由と今後の取組み |                                                                    |
|-----------------------------|-----|----------------------|------------------|---------------|----------------|------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|--------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 【施策2-1】<br>報告書(案)<br>P73-74 | 2   | 文化財の<br>保存・活用の<br>推進 | ゆかりの家・いなげ<br>の改修 | -             | -              | 外壁等腐食<br>箇所修繕、<br>電気設備工<br>事 | 外壁等腐食<br>箇所修繕、<br>電気設備工<br>事完了 | -                               | 休止                 | ゆかりの家・いなげは、地域有形文化財としての価値を損うことがいふよう、緊急性を考慮しながら適切な補修を行っていく。          |
|                             |     |                      | 旧検見川無線送信<br>所の修繕 | 屋上防水実<br>施設設計 | 屋上防水改<br>修工事完了 | 屋上防水及<br>び外壁補修<br>工事         | 屋上防水及<br>び外壁補修<br>工事完了         | 屋上防水改<br>修工事完了<br>(H28実績可<br>用) | 休止                 | 旧検見川無線送信所は、当該建物を含む区画整理地の土地利用等の検討及び計画策定中の間は、建物の劣化状況を注視しつつ、現状維持に努める。 |

| No.                          | 事業名 | 新規・拡充項目<br>継続            | H27末<br>(現状値)                 | H28末<br>(実績)     | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(実績)                           | 進捗<br>状況      | 進捗状況「遅れ」の理由と今後の取組み |                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------------------------------|-----|--------------------------|-------------------------------|------------------|----------------|----------------|----------------------------------------|---------------|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【施策2-2】<br>報告書(案)<br>P77, 80 | 6   | 未来の科学者育成<br>プログラムの充<br>実 | ジュニア講座の充<br>実                 | 実施               | 拡充             | 拡充             | 拡充                                     | 実施(受講<br>者数減) | 遅れ                 | 「遅れ」の理由としては、募集チラシの配布が各小学校の5、6年生の学級数分だったため、保護者の目に触れにくかったことが考えられる。来年度は各小学校の5、6年生の児童数分を配布し、保護者への認知度を上げるようにする。また、児童のニーズに沿った講座を準備するため、保護者アンケートでも希望があった野外観察を取り入れた新規講座を30年度に千葉市動物公園にて立ち上げる。ジュニア講座の受講生が未来の科学者を目指す意欲を高めるとともに、中・高校生対象の未来の科学者育成プログラムの受講につながるよう努める。また、30年度秋の講座より、募集を電子申請でも対応できるようにする。 |
| 報告書(案)<br>P77, 81            | 8   | 放課後子<br>ども教室の<br>推進      | 実施日数                          | 21.2日/校<br>(H26) | 19.8日/校        | 30.0日/校        | 前半3ヵ年<br>の取組状況<br>を踏まえ、<br>見直し時に<br>設定 | 19.8日/校       | 遅れ                 | 高齢化や共働き世代の増加により協力員等の担い手が不足する中、安全管理やプログラム開発等での地域への負担が増大し、実施日数が伸び悩んでいる。企業等による質の高い継続プログラムを実施するとともに、総合コーディネーターによる活動支援を継続し、実施日数の増加を図る。また、「(仮称)放課後子どもプラン」を策定し、今後の事業展開の方向性を示す。                                                                                                                   |
| 報告書(案)<br>P78, 81            | 9   | 子ども読書<br>活動の推<br>進       | 読書習慣のある児<br>童生徒の割合(中<br>学2年生) | 46.9%<br>(H26)   | 44.4%          | 49.0%          | 52.5%                                  | 44.5%         | 遅れ                 | 「まほうの読書ノート」の配布時期の前倒しなど、適宜子どもの読書活動の推進事業の見直しを行う。また、職場体験の受け入れや団体貸出、図書館指導員の研修会への出席など、学校との連携をさらに強め、中学生の読書習慣の形成に努める。                                                                                                                                                                            |
| 報告書(案)<br>P78, 81            | 11  | 家庭教育<br>支援事業<br>の実施      | 「子育てママのお<br>しゃべりタイム」の<br>実施館数 | 21館<br>(H26)     | 22館            | 28館            | 28館                                    | 22館           | 遅れ                 | 当該事業の担い手である子育てサポーターの登録状況や地域の子育て世代のニーズに応じ、実施回数や場所を調整していく。                                                                                                                                                                                                                                  |

| No.                         | 事業名 | 新規・拡充項目<br>継続                 | H27末<br>(現状値)                | H28末<br>(実績)    | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(実績) | 進捗<br>状況 | 進捗状況「遅れ」の理由と今後の取組み |                                                                                                                                                             |
|-----------------------------|-----|-------------------------------|------------------------------|-----------------|----------------|----------------|--------------|----------|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【施策3-1】<br>報告書(案)<br>P83-84 | 2   | ボランテ<br>アの育成                  | ちば生涯学習ボラ<br>ンティアセンター登<br>録者数 | 1,634人<br>(H26) | 1,635人         | 1,850人         | 2,000人       | 1,697人   | 遅れ                 | 新規の登録がある反面、高齢による登録抹消の申請もあるため、目標値に達していない状況である。ボランティアを紹介するイベントの実施や、ボランティアコーディネーター数を増やすことで、ボランティアの活動機会を増やし、ボランティアセンターへの新規登録者の獲得に努め、高校生・大学生などの若年層や現役世代の登録促進を図る。 |
|                             | 3   | 家庭教育<br>支援事業<br>の実施(一<br>部再掲) | 家庭教育支援チ<br>ーム数               | 2チーム<br>(H26)   | 2チーム           | 4チーム           | 4チーム         | 2チーム     | 遅れ                 | 構成員の高齢化が進んでいたが、子育て現役世代の協力者が4人増え、チーム数は昨年度と同様になっている。広報PRに努め、参加者を含めより幅広く参画を働きかけていく。                                                                            |

| No.                         | 事業名 | 新規・拡充項目<br>継続               | H27末<br>(現状値)                                     | H28末<br>(実績)   | H30末<br>(中間目標) | H33末<br>(最終目標) | H29末<br>(実績) | 進捗<br>状況 | 進捗状況「遅れ」の理由と今後の取組み |                                                                                                             |
|-----------------------------|-----|-----------------------------|---------------------------------------------------|----------------|----------------|----------------|--------------|----------|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【施策3-3】<br>報告書(案)<br>P90-91 | 1   | 多様な主<br>体による学<br>習活動の<br>推進 | 公民館、生涯学習<br>センターにおいて<br>多様な主体と連携<br>して実施した事業<br>数 | 103事業<br>(H26) | 114事業          | 115事業          | 120事業        | 109事業    | 遅れ                 | 平成29年度の実施事業数は、平成28年度の現状値から減少したものの、平成27年度の現状値からは上昇しているため、引き続き、NPO法人や高等教育機関、社会教育関係団体等の多様な主体と連携した学区集活動を推進していく。 |